ピアノレッスンA			野戸智美／他17名	
必修科目	実技	1単位	1年次	複数
教員養成課程の区分	―			
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目「ピアノレッスンA」			
担当教員の実務経験	―			

＜授業概要＞
・保育者に求められる音楽の基礎知識を学ぶ。
・鍵盤楽器奏法の基本と童謡歌曲等の伴奏法及び弾き歌いの力を修得する。

＜授業の到達目標＞
・音楽の基礎知識を学び、楽譜を正確に理解し演奏する力を養う。
・鍵盤楽器奏法の基礎、童謡歌曲等の伴奏法、及び弾き歌いの方法を学ぶことで、幼児の表現活動を展開させる技術を修得する。
・グレード６級以上（バイエル修了程度）の演奏技術を修得する。

＜授業方法＞
・個々の習熟度に応じた個人レッスンを実施し、本校独自のグレード制に沿って学びを進める。
・習熟度に合わせたグレードを受験することができる。

＜授業計画＞
第１回：ガイダンス　ピアノ学習の目的と心構え　グレード設定。
第２回：バイエル№1～№9。 正しい姿勢　椅子の高さ　指の位置。
第３回：バイエル№10～№20。 指使い　正確な音の長さの理解について。
第４回：バイエル№11～№20。 指使い　正確な音の長さの理解スラーについての確認。
第５回：バイエル№21～№30。 タイについて　鍵盤の位置。
第６回：バイエル№21～№30。 タイについて　鍵盤の位置の確認。
第７回：バイエル№31～№50。 オクターブ記号　付点音符について　全音符から８分音符までの正確な音価。
第８回：バイエル№31～№50。 オクターブ記号　付点音符について　全音符から８分音符までの正確な音価の確認。
第９回：バイエル№51～№79。 スタカート　アウフタクト　ヘ音記号。 童謡任意弾き歌い。
第１０回：バイエル№51～№79。 分散形伴奏　ト長調。 童謡任意弾き歌いの確認。
第１１回：バイエル№80.83.85。 前打音　手の交差奏法　ニ長調・イ長調・ホ長調・ヘ長調。 童謡任意弾き歌い。
第１２回：バイエル№88.89.90。 16分音符の早い動き　16分休符の意識。 童謡任意弾き歌い。
第１３回：バイエル№91.93.95。 イ短調　６度の奏法。 童謡任意弾き歌い。
第１４回：バイエル№96.97.98。 前打音装飾音符　３度の動き。 童謡任意弾き歌い。
第１５回：バイエル№80～№98.の中より任意の２曲　童謡の中より任意の２曲
※　個人指導を含む為、 同様の範囲を示しているが内容は個々の進度によって異なる。

＜授業時間外学修＞
事前事後の練習を基本とする。

＜テキスト＞
「全訳バイエルピアノ教則本」、「ブルグミュラー　25の練習曲」　全音楽譜出版社
「保育実用書シリーズ　こどものうた２００」小林美実編　チャイルド社
「童謡曲集」、「マーチ曲集」　聖ヶ丘保育専門学校

＜参考書・参考資料＞
幼稚園教育要領(平成２９年３月告示　文部科学省)
幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成２９年３月告示　内閣府・文部科学省・厚生労働省)

＜成績評価＞
実技試験（各級で取得した点数の平均を最終成績とする）90%　受講状況　10%
60～69点を「可」　・70～79点を「良」・80点以上を「優」として単位を認定する。

＜備考＞
初回のガイダンスを良く理解し授業に臨むこと。

ピアノレッスンB			野戸智美／他17名	
必修科目	実技	1単位	1年次	複数
教員養成課程の区分	―			
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目「ピアノレッスンB」			
担当教員の実務経験	―			

＜授業概要＞
・保育者に求められる音楽の基礎知識を学ぶ。
・鍵盤楽器奏法の基本と童謡歌曲等の伴奏法及び弾き歌いの力を修得する。

＜授業の到達目標＞
・音楽の基礎知識を学び、楽譜を正確に理解し演奏する力を養う。
・鍵盤楽器奏法の基礎、童謡歌曲等の伴奏法、及び弾き歌いの方法を学ぶことで、幼児の表現活動を展開させる技術を修得する。
・グレード６級以上（バイエル修了程度）の演奏技術を修得する。

＜授業方法＞
・個々の習熟度に応じた個人レッスンを実施し、本校独自のグレード制に沿って学びを進める。
・グレード10級～１級はグレード試験を受験することができる。

＜授業計画＞
第1回：グレード設定の確認。　バイエル№99.100.101.102。 複付点音符　ポジションの跳躍。 童謡任意弾き歌い　マーチ。
第2回：バイエル№99.100.101.102。 童謡任意弾き歌い　マーチ。
第3回：バイエル№103.104.105。 半音階奏法。 童謡・マーチの奏法。
第4回：バイエル№103.104.105。 童謡任意弾き歌い　マーチ。
第5回：バイエル№103.104.105。 童謡任意弾き歌いマーチの確認。
第6回：バイエル№100.102.104.105。 の中より任意の２曲　童謡マーチの中より任意の２曲。
第7回：ブルグミュラー　25の練習曲 №1　童謡　マーチの中から「あるきましょう」「はしりましょう」
第8回：ブルグミュラー　25の練習曲 №2　童謡　マーチの中から「おとのマーチ」
第9回：ブルグミュラー　25の練習曲 №3　童謡　マーチの中から「おともだち」「オリンピア・マーチ」
第10回：ブルグミュラー　25の練習曲 №4　童謡　マーチの中から「お料理行進曲」
第11回：ブルグミュラー　25の練習曲 №5　童謡　マーチの中から「かけっこマーチ」「かけあしマーチ」
第12回：ブルグミュラー　25の練習曲 №6　童謡　マーチの中から「カレンダーマーチ」
第13回：ブルグミュラー　25の練習曲 №7　童謡　マーチの中から「きれいな小川」「子供の世界」
第14回：ブルグミュラー　25の練習曲 №8　童謡　マーチの中から「小犬のマーチ」「なかよしマーチ」
第 15 回：ブルグミュラー　25 の練習曲№9　童謡　マーチの中から「バースデイ・マーチ」「パレードマーチ」
※　個人指導を含む為、 同様の範囲を示しているが内容は個々の進度によって異なる。

＜授業時間外学修＞
事前事後の練習を基本とする。

＜テキスト＞
「全訳バイエルピアノ教則本」、「ブルグミュラー　25の練習曲」　全音楽譜出版社
「保育実用書シリーズ　こどものうた２００」小林美実編　チャイルド社
「童謡曲集」、「マーチ曲集」　聖ヶ丘保育専門学校

＜参考書・参考資料＞
幼稚園教育要領(平成２９年３月告示　文部科学省)
幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成２９年３月告示　内閣府・文部科学省・厚生労働省)

＜成績評価＞
実技試験（各級で取得した点数の平均を最終成績とする）90%　受講状況　10%
60～69点を「可」　・70～79点を「良」・80点以上を「優」として単位を認定する。

＜備考＞
ピアノレッスンAに準ずる。

ピアノレッスンC			野戸智美／他 17 名	
必修科目	実技	1 単位	1 年次	複数
教員養成課程の区分	―			
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目「ピアノレッスン C」			
担当教員の実務経験	―			

＜授業概要＞
・保育者に求められる音楽の基礎知識を学ぶ。
・鍵盤楽器奏法の基本と童謡歌曲等の伴奏法及び弾き歌いの力を修得する。

＜授業の到達目標＞
・音楽の基礎知識を学び、楽譜を正確に理解し演奏する力を養う。
・鍵盤楽器奏法の基礎、童謡歌曲等の伴奏法、及び弾き歌いの方法を学ぶことで、幼児の表現活動を展開させる技術を修得する。
・グレード６級以上（バイエル修了程度）の演奏技術を修得する。

＜授業方法＞
・個々の習熟度に応じた個人レッスンを実施し、本校独自のグレード制に沿って学びを進める。
・グレード 10 級～１級はグレード試験を受験することができる。

＜授業計画＞
第 1 回：グレード設定の確認。　バイエル№99.100.101.102。 複付点音符　ポジションの跳躍。 童謡任意弾き歌い　マーチ。
第 2 回：バイエル№99.100.101.102。 童謡任意弾き歌い　マーチ。
第 3 回：バイエル№103.104.105。 半音階奏法。 童謡・マーチの奏法。
第 4 回：バイエル№103.104.105。 童謡任意弾き歌い　マーチ。
第 5 回：バイエル№103.104.105。 童謡任意弾き歌いマーチの確認。
第 6 回：バイエル№100.102.104.105。 の中より任意の２曲　童謡マーチの中より任意の２曲。
第 7 回：ブルグミュラー　25 の練習曲 №1　童謡　マーチの中から「あるきましょう」「はしりましょう」
第 8 回：ブルグミュラー　25 の練習曲 №2　童謡　マーチの中から「おとのマーチ」
第 9 回：ブルグミュラー　25 の練習曲 №3　童謡　マーチの中から「おともだち」「オリンピア・マーチ」
第 10 回：ブルグミュラー　25 の練習曲 №4　童謡　マーチの中から「お料理行進曲」
第 11 回：ブルグミュラー　25 の練習曲 №5　童謡　マーチの中から「かけっこマーチ」「かけあしマーチ」
第 12 回：ブルグミュラー　25 の練習曲 №6　童謡　マーチの中から「カレンダーマーチ」
第 13 回：ブルグミュラー　25 の練習曲 №7　童謡　マーチの中から「きれいな小川」「子供の世界」
第 14 回：ブルグミュラー　25 の練習曲 №8　童謡　マーチの中から「小犬のマーチ」「なかよしマーチ」
第 15 回：ブルグミュラー　25 の練習曲№9　童謡　マーチの中から「バースデイ・マーチ」「パレードマーチ」
※　個人指導を含む為、 同様の範囲を示しているが内容は個々の進度によって異なる。

＜授業時間外学修＞
事前事後の練習を基本とする。

＜テキスト＞
「全訳バイエルピアノ教則本」、「ブルグミュラー　25 の練習曲」　全音楽譜出版社
「保育実用書シリーズ　こどものうた２００」小林美実編　チャイルド社
「童謡曲集」、「マーチ曲集」　聖ヶ丘保育専門学校

＜参考書・参考資料＞
幼稚園教育要領(平成２９年３月告示　文部科学省)
幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成２９年３月告示　内閣府・文部科学省・厚生労働省)

＜成績評価＞
実技試験（各級で取得した点数の平均を最終成績とする）90%　受講状況　10%
60～69 点を「可」　・70～79 点を「良」・80 点以上を「優」として単位を認定する。

＜備考＞
ピアノレッスン A に準ずる。

ピアノレッスンD			野戸智美／他 10 名	
選択科目	実技	1 単位	2 年次	複数
教員養成課程の区分	―			
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目「ピアノレッスンD」			
担当教員の実務経験	―			

＜授業概要＞
・伴奏法、弾き歌いを含む鍵盤楽器演奏技術の向上を目指す。
・多様な楽曲に触れることで豊かな音楽性を養い、幼児の表現を支えるための知識・技能・表現力を修得する。

＜授業の到達目標＞
・鍵盤楽器演奏に求められる技術を修得する。
・楽譜を正しく読み解き、楽曲への理解を深めることができる。
・楽曲を豊かに表現することができる。

＜授業方法＞
・履修者に必要な課題を中心に授業計画を立て、習熟度に合わせた曲目を選択し、個々の演奏技術向上を図る。

＜授業計画＞
第１回：ガイダンス　ピアノ学習の目的と心構え　グレード設定。
第２回：バイエル№1～№9。 正しい姿勢　椅子の高さ　指の位置。
第３回：バイエル№10～№20。 指使い　正確な音の長さの理解について。
第４回：バイエル№11～№20。 指使い　正確な音の長さの理解スラーについての確認。
第５回：バイエル№21～№30。 タイについて　鍵盤の位置。
第６回：バイエル№21～№30。 タイについて　鍵盤の位置の確認。
第７回：バイエル№31～№50。 オクターブ記号　付点音符について
第８回：バイエル№31～№50。 オクターブ記号　付点音符について
第９回：バイエル№51～№79。 スタカート　アウフタクト　ヘ音記号。
第１０回：バイエル№51～№79。 分散形伴奏　ト長調。
第１１回：バイエル№80.83.85。 前打音　手の交差奏法　ニ長調・イ長調・ホ長調・ヘ長調。
第１２回：バイエル№88.89.90。 16 分音符の早い動き　16 分休符の意識。
第１３回：バイエル№91.93.95。 イ短調　６度の奏法。
第１４回：バイエル№96.97.98。 前打音装飾音符　３度の動き。
第１５回：バイエル№80～№98.の中より任意の２曲　童謡の中より任意の２曲
※　個人指導のため、内容は個々の進度によって異なる。

＜授業時間外学修＞
事前事後の練習を基本とする。

＜テキスト＞
「全訳バイエルピアノ教則本」、「ブルグミュラー　25 の練習曲」　全音楽譜出版社
「保育実用書シリーズ　こどものうた２００」小林美実編　チャイルド社
「童謡曲集」、「マーチ曲集」　聖ヶ丘保育専門学校　等

＜参考書・参考資料＞
幼稚園教育要領(平成２９年３月告示　文部科学省)
幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成２９年３月告示　内閣府・文部科学省・厚生労働省)

＜成績評価＞
実技試験 80%　受講状況 20%

＜備考＞
初回のガイダンスを良く理解し授業に臨むこと。

ピアノレッスンE			高橋拓真／他５名	
選択科目	実技	１単位	２年次	複数
教員養成課程の区分	―			
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目「ピアノレッスンE」			
担当教員の実務経験	―			

＜授業概要＞
・発声の基礎と童謡歌曲等の歌唱法を修得する。
・伴奏法、弾き歌いを含む鍵盤楽器演奏技術の向上を目指す。
・多様な楽曲に触れることで豊かな音楽性を育み、幼児の表現を支えるための知識・技能・表現力を養う。

＜授業の到達目標＞
・発声の基礎と童謡歌曲等の歌唱法を修得する。
・童謡唱歌や歌唱を伴ううた遊びを通して歌唱力を養い、歌唱教材についての知識・理解を深めることができる。
・楽曲を豊かに表現することができる。

＜授業方法＞
・履修者に必要な課題を中心に授業計画を立て、習熟度に合わせた曲目を選択し、個々の演奏技術向上を図る。

＜授業計画＞
第１回：複付点音符　ポジションの跳躍。 童謡任意弾き歌い　マーチ。
第２回：童謡任意弾き歌い　マーチ。
第３回：半音階奏法。 童謡・マーチの奏法。
第４回：童謡任意弾き歌い　マーチ。
第５回：童謡任意弾き歌いマーチの確認。
第６回：童謡マーチの中より任意の２曲。
第７回：童謡　マーチの中から「あるきましょう」「はしりましょう」
第８回：童謡　マーチの中から「おとのマーチ」
第９回：童謡　マーチの中から「おともだち」「オリンピア・マーチ」
第10回：童謡　マーチの中から「お料理行進曲」
第11回：童謡　マーチの中から「かけっこマーチ」「かけあしマーチ」
第12回：童謡　マーチの中から「カレンダーマーチ」
第13回：童謡　マーチの中から「きれいな小川」「子供の世界」
第14回：童謡　マーチの中から「小犬のマーチ」「なかよしマーチ」
第15回：童謡　マーチの中から「バースデイ・マーチ」「パレードマーチ」
※　個人指導を含む為、 同様の範囲を示しているが内容は個々の進度によって異なる。

＜授業時間外学修＞
事前事後の練習を基本とする。

＜テキスト＞
「保育実用書シリーズ　こどものうた２００」小林美実編　チャイルド社
「童謡曲集」、「マーチ曲集」　聖ヶ丘保育専門学校　等

＜参考書・参考資料＞
幼稚園教育要領(平成２９年３月告示　文部科学省)
幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成２９年３月告示　内閣府・文部科学省・厚生労働省)

＜成績評価＞
実技試験 80%　受講状況 20%

＜備考＞
初回のガイダンスを良く理解し授業に臨むこと。

英語 A			加藤　磨理子	
必修科目	演習	1 単位	二年次	単独
教員養成課程の区分	外国語コミュニケーション			
保育士養成課程の区分	教養科目「外国語」			
担当教員の実務経験	幼稚園、保育園での英語指導の実務経験あり			

＜授業概要＞
テキスト『保育の英会話』をベースに、歌、映像資料などを取り入れて、子どもが英語に親しみ新しい文化を知るきっかけを与える保育者を目指す。前半ではテキスト演習の座学を中心に。後半では子ども向けの英語の歌を、歌詞の内容と子どもが興味を惹くポイントを理解した上で、保育現場で実際に使うことができるように練習をする。適宜、映像資料も視聴する。

＜授業の到達目標＞
国際化の進行する保育現場において、英語を母語とする幼児、保護者と、日本語を母語する幼児への双方に対して、基本的な英語でのコミュニケーションが取れるようになることを目指す。保育に最低限必要な英単語を理解し、正確に発音、表記することができるようになる。

＜授業方法＞
グループワーク

＜授業計画＞
第 1 回　イントロダクション　授業の進め方、自己紹介
第 2 回　Unit1　保育の英会話への第一歩　〝The Alphabet Song〟
第 3 回　Unit1　リスニングの基本、保育の英単語　〝Finger Family〟
第 4 回　Unit2　挨拶の決まり　〝Bingo〟
第 5 回　Unit2　家庭調査票を読み取る　〝Mary Had a Little Lamb〟
第 6 回　Unit3　時刻の表し方　〝Good Morning〟
第 7 回　Unit3　持ち物のお知らせと数　〝Lazy Mary〟
第 8 回　Unit4　地図と場所　〝Sunday,Monday,Tuesday〟
第 9 回　Unit4　道案内をしてみよう　〝Head,Shoulders,Knees and Clap!〟
第 10 回　Unit5　子供の遊び　〝Happy Birthday to you〟
第 11 回　Unit5　動作と遊びの英単語　〝The Hokey-Pokey〟
第 12 回　Unit6　登園、今日の天気は？／グループワーク
第 13 回　Unit6　降園、どんな一日だった？／グループワーク
第 14 回　Unit6　自分のことを表現しよう　～したことある？／グループワーク
第 15 回　グループ発表、試験とまとめ

＜授業時間外学修＞
授業時間内で取り扱った英文法の復習のため、テキスト内の指示した箇所の問題を解き、丸付け、直しまでを完了させる。
また授業期間に計 5 回行う予定の単語テストの際は、試験前にあらかじめ指定した保育現場で使用する英単語の書き取り練習、テスト対策を行う。

＜テキスト＞
『保育の英会話』（赤松直子、久富陽子著　萌文書林）

＜参考書・参考資料＞
『くもんはじめてのえいごうたえほん』（公文教育研究会英語教材部）

＜成績評価＞
実技６０％、筆記試験（単語テスト）２０％、グループワークへの積極性（最終回のグループ発表に向けて、複数で協力し合って一つの作品を作り出す姿勢に着目する。実際の保育の現場を想定して、積極的なコミュニケーションを取り合うことを目標にする）２０％

＜備考＞

英語 B			加藤　磨理子	
必修科目	演習	1 単位	二年次	単独
教員養成課程の区分	外国語コミュニケーション			
保育士養成課程の区分	教養科目「外国語」			
担当教員の実務経験	幼稚園、保育園での英語指導の実務経験あり			

＜授業概要＞
テキスト『保育の英会話』をベースに、歌、映像などを取り入れて、子どもが英語に親しみ新しい文化を知るきっかけを与える保育者を目指す。授業の前半ではテキスト演習の座学を中心に。後半では子ども向けの英語の歌を、歌詞の内容と子どもが興味を惹くポイントを理解した上で、保育現場で実際に使うことができるように練習をする。適宜、映像資料も視聴する。

＜授業の到達目標＞
国際化の進行する保育現場において、英語を母語とする幼児、保護者と、日本語を母語とする幼児への双方に対して、基本的な英語でのコミュニケーションが取れるようになることを目指す。保育に最低限必要な英単語を理解し、正確に発音、表記することができるようになる。

＜授業方法＞
グループワーク

＜授業計画＞
第 1 回　イントロダクション　授業概要。前期授業とのつながり。
第 2 回　Unit7　保育者の一日　保育者の一日を振り返ろう　〝Twinkle,Twinkle,Little Star〟
第 3 回　Unit7　保育者の一日　0 歳、一歳児の保育　〝London Bridge〟
第 4 回　Unit8　昼食の始まり、声かけをしよう　〝1,2,3,4,5 Clap Clap〟
第 5 回　Unit8　献立を覚えよう　〝The Wheels on the Bus〟
第 6 回　Unit9　トイレと排泄　〝Old MacDonald Had a Farm〟
第 7 回　Unit9　連絡帳　〝Row,Row,Row Your Boat〟
第 8 回　Unit10　子ども同士の喧嘩　〝Where Is Thumbkin?〟
第 9 回　Unit10　〜してはいけません、〜しましょう　〝Seven Steps〟
第 10 回　Unit11　怪我と病気①保護者へ報告　〝Pat-a-Cake,Pat-a-Cake〟
第 11 回　Unit11　怪我と病気②けがや病気の英単語　〝Are You Sleeping?〟
第 12 回　Unit12　電話でのやりとり／グループワーク
第 13 回　Unit14　赤ちゃんへの声かけ／グループワーク
第 14 回　Unit15　卒園／グループワーク
第 15 回　グループ発表、試験とまとめ

＜授業時間外学修＞
授業時間内で取り扱った英文法の復習のため、テキスト内の指示した箇所の問題を解き、丸付け、直しまでを完了させる。
また授業期間に計 5 回行う予定の単語テストの際は、試験前にあらかじめ指定した保育現場で使用する英単語の書き取り練習、テスト対策を行う。

＜テキスト＞
『保育の英会話』（赤松直子、久富陽子著　萌文書林）

＜参考書・参考資料＞
『くもんはじめてのえいごうたえほん』（公文教育研究会英語教材部）

＜成績評価＞
実技６０％、筆記試験（単語テスト）２０％、グループワークへの積極性（最終回のグループ発表に向けて、複数で協力し合って一つの作品を作り出す姿勢に着目する。実際の保育の現場を想定して、積極的なコミュニケーションを取り合うことを目標にする）２０％

＜備考＞

環境			岸　久美子	
必要科目	演習	1単位	1年次	単独
教員養成課程の区分	領域及び保育内容の指導法に関する科目「保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）」			
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目「保育内容演習」			
担当教員の実務経験	―			

＜授業概要＞
保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の環境領域について理解する。また、幼児教育現場の環境や活動について学ぶ。
グループディスカッションや発表を通して、子どもの発達や状況に合わせた環境に関する留意及び配慮の方法について学ぶ。そして、教育実習及び保育実習につなげる。

＜授業の到達目標＞
幼児を取り巻く環境（物的環境、人的環境、社会的環境、安全等）と、幼児の発達における環境の重要性について説明できる。
保育内容「環境」を基にした幼児教育の活動を使った指導案の作成ができるようにする。

＜授業方法＞
講義、グループディスカッション＆発表、製作

＜授業計画＞
第1回　ガイダンス、保育環境と領域「環境」
第2回　「5領域」、保育内容「環境」における「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」
第3回　0歳児の発達と「環境」
第4回　小テストⅠ、季節の折り紙①
第5回　1歳以上3歳未満児の発達と「環境」①
第6回　1歳以上3歳未満児の発達と「環境」②　事例研究
第7回　3歳以上児の発達と環境①、小学校との接続
第8回　3歳以上児の発達と環境②　事例研究
第9回　小テストⅡ、季節の折り紙②
第10回　自然環境と地域環境
第11回　指導計画と環境
第12回　季節と環境①
第13回　季節と環境②
第14回　季節の折り紙③
第15回　試験及び期末まとめ

＜授業時間外学修＞
各回の最後に、翌週の授業についてお知らせします。教科書の該当ページを読んでから、授業に出席してください。

＜テキスト＞
事例と演習でわかる保育内容「環境」　駒井美智子、横山文樹：編著　中央法規

＜参考書・参考資料＞
平成29年告示「幼稚園教育要領」　文部科学省
平成29年告示「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」　内閣府
平成29年告示「保育所保育指針」　厚生労働省
小櫃 智子ほか「幼稚園・保育園。認定こども園実習パーフェクトガイド」　わかば社

＜成績評価＞
期末試験50%　小テストⅠⅡ20%　発表、提出物（レポート、製作)、授業の参加度30%

＜備考＞
特になし。

基礎音楽			野戸智美／高橋拓真	
必修科目	講義	２単位	１年次	複数
教員養成課程の区分	―			
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目「基礎音楽」			
担当教員の実務経験	―			

＜授業概要＞
保育者として必要な演奏の技能や基本的な音楽の仕組み(楽典)を習得することで、豊かな音楽性を養い、幼児の表現を支えるための知識・技能・表現力の向上を目指す。

＜授業の到達目標＞
・音楽表現の基礎を習得し、音楽の規則や仕組み(楽典)を理解している。
・音楽を表現することを通して、多様な表現を受け止め共感する能力を養うことができる。
・豊かな音楽性を育み、幼児の表現活動を展開させる技術を習得することができる。

＜授業方法＞
楽典（音楽の基礎）・手あそび・歌唱・リズム課題などを用いて、音楽活動や演奏に必要な知識、技能についての基礎を学ぶ。

＜授業計画＞
第１回：ガイダンス　音楽理論の意味と楽典の内容及び授業方針の概要の説明
第２回：楽典①　校歌・ 生活の歌　手あそび
第３回：楽典①　季節の歌　手あそび
第４回：楽典②　季節の歌　手あそび
第５回：楽典②　季節の歌
第６回：楽典③　季節の歌
第７回：楽典③　季節の歌　リズム①
第８回：楽典④　季節の歌　リズム②
第９回：楽典④　子どもの歌①　リズム③
第 10 回：楽典⑤　子どもの歌①　リズム課題①
第 11 回：楽典⑤　子どもの歌②　リズム課題②
第 12 回：楽典⑥　子どもの歌②　リズム課題③
第 13 回：楽典⑥　子どもの歌②
第 14 回：まとめ　（筆記試験対策）
第 15 回：学期末試験　（筆記）　振り返り授業

＜授業時間外学修＞
事後学修としてノート又はプリントを整理し理解を深めること。

＜テキスト＞
「子どものための音楽表現技術ー感性と実践力豊かな保育者へー」 今泉明美．他編　萌文書林
「新・たのしい子どものうたあそび-現場で活かせる保育実践-　第２版」 木村鈴代編　同文書院

＜参考書・参考資料＞
幼稚園教育要領(平成２９年３月告示　文部科学省)
幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成２９年３月告示　内閣府・文部科学省・厚生労働省)

＜成績評価＞
学期末試験 60%　授業内課題 30%　受講状況 10%
60～69 点を 「可」 ・70～79 点を 「良」 ・80 点以上を 「優」 として単位認定する。

＜備考＞
全ての授業への参加・所定の課題実施が、学修を完遂するための必須条件である。

基礎造形			花村　泰江	
必修科目	講義	2単位	1年次	単独
教員養成課程の区分	―			
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目「基礎造形」			
担当教員の実務経験	―			

＜授業概要＞
描く・作る等の造形行為を主とした表現活動の体験を通し、素材や用具の特性を理解すると共に、保育・教育の活動場面における援助の方法や留意点について知る。

＜授業の到達目標＞
①保育活動の造形行為にある一般的な造形要素（素材・用具を含む）を扱うことができる。
②子どもの発達等の状況をふまえた、素材や用具の提供や援助の留意点を考えることができる。
③様々な素材との触れ合いではたらく身体の諸感覚への認識をもつことができる。

＜授業方法＞
実技演習を中心として、要所に講義を交える。実技演習では個人および集団による制作や遊びを取り扱う。

＜授業計画＞
第１回：【講義】ガイダンス…授業の趣旨、求める姿勢・評価について
第２回：【演習】画用紙と用具の扱いについて…画用紙パペット作り①画用紙の質的変化を感じる
第３回：【演習】画用紙と用具の扱いについて…画用紙パペット作り②用具と描画材の工夫
第４回：【演習】画用紙と用具の扱いについて…パペット作品鑑賞会・講評
第５回：【演習】描画材と支持体の特性理解…クレヨン、クレパス（色の基本要素について）
第６回：【演習】描画材と支持体の特性理解…色鉛筆、マーカーペン（線描による表現）
第７回：【演習】描画材と支持体の特性理解…水性絵の具の技法と表現（描画材で作品制作）
第８回：【演習】描画材と支持体の特性理解…水性絵の具で遊ぶ（スタンピング等）
第９回：【演習】雑材の活用…身近な素材（段ボール、紐、ボタン、シール等）から絵柄をイメージする。
第１０回：【演習】雑材の活用…身近な素材（段ボール、紐、ボタン、シール等）を厚紙にコラージュする。
第１１回：【演習】雑材の活用…コラージュをさらに進める。コラージュ作品鑑賞会・講評。
第１２回：【演習】立体素材による表現…粘土①触覚の再発見と素材の呼応性
第１３回：【演習】立体素材による表現…粘土②作品の仕上げ
第１４回：【講義】立体素材による表現…作品鑑賞会・講評／制作振り返り
第１５回：【講義】まとめ

＜授業時間外学修＞
事後学修として、毎時の振り返り記述を実施・提出すること。また、各自記録する授業ノートおよび配布資料を照応・整理する機会を設けること。
事前学修として、資料の参照を提示する場合がある。

＜テキスト＞
特になし。

＜参考書・参考資料＞
幼稚園教育要領(平成２９年３月告示　文部科学省)
幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成２９年３月告示　内閣府・文部科学省・厚生労働省)
保育所保育指針（平成２９年３月告示　厚生労働省）

＜成績評価＞
【評価配点】
１．授業態度を含めた取り組み(10%)　２．成果物・記録(60%)　３．最終試験・レポート(30%)

＜備考＞
特になし。

教育・保育実地研究			蠣崎尚美・小林 根・岸本圭子・清水かおり・田村雅美・甲田美香・太田淳平	
必修科目	演習	2単位	1年次	複数
教員養成課程の区分	―			
保育士養成課程の区分	学校独自の科目			
担当教員の実務経験	―			

＜授業の概要＞

教育・保育実地研究は本校の附属園・提携園を効果的に活用して、園で積極的に子どもたちと関わることにより、子どもを知り、保育の楽しさを実感し、今後の保育を学んでいこうとする意欲を育てる必修科目である。 4月から事前指導を受け、5月から7月までの隔週1日附属園・提携園の現場で子どもと直接関わることで、さまざまな発見や気づきを記録する。それを学校においてグループで共有し、整理・発表するとともに、子どもや保育のイメージが明確にして、今後の授業や実習にスムーズに入っていけるための入門的・導入的な授業である。

＜授業の到達目標＞

・子どもと遊びや生活をともにする楽しさを味わう中で、子どもを知る。
・園の環境や保育者の関わり方を知る。

＜授業方法＞

対面にて体験学習前の心構え、子どもとのかかわり方、準備することなど学ぶ。実際に附属・提携園に行き、子どもの生活や遊び、保育者の関わりなど見て学び、学校にて振り返りをする。

＜授業計画＞

第１回：実習部長挨拶、実習部紹介、学校生活などについて
第２回：体験学習実習の流れ、心構えなど、教材研究ノートについて、
第３回：配当発表　身上書の書き方(下書き)
第４回：幼稚園・保育園・認定こども園について
第５回：体験学習のねらいについて、健康管理・予防接種について、細菌検査配付
第６回：記録の書き方について、
第７回： オリエンテーションについて
第８回：カルテ記入、トラブルシューティングについて
第９回：附属園・提携園にてオリエンテーション
第１０・１１・１２・１３回：実地研究１回目：子どもと遊ぶ
第１４回：振り返り
第１５・１６・１７・１８回：実地研究２回目
第１９回：振り返り
第２０・２１・２２・２３回：実地研究３回目
第２４回：振り返り
第２５・２６・２７・２８回：実地研究４回目
第２９回：振り返り
第３０回：実地研究まとめ

＜授業時間外学修＞

各自教材研究を進め、子どもとかかわる際の準備をする。また、授業での学びを振り返り、見直しをする。

＜テキスト＞

特になし

＜参考書・参考資料＞

幼稚園教育要領
保育所保育指針
幼保連携型認定こども園教育・保育要領
「実習の手引き」　聖ヶ丘保育専門学校　編

＜成績評価＞

体験学習記録50%
提出物　50%

＜備考＞

特になし

教育の方法と技術			齋藤　澄子	
必修科目	演習	2単位	1年次	単独
教員養成課程の区分	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目 「教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）」			
保育士養成課程の区分	―			
担当教員の実務経験	小学校教員28年、学校管理職6年、教育委員会指導主事4年			

＜授業概要＞
園児が成長していく過程で経験する教育・学習活動全般に見通しをもって子どもと関わることができるように、教育者としての学びを培い、教育方法についての理解を深め実践的な指導技術を身に付ける。また情報機器の効果的な活用法や視聴覚教材の作成方法等についても理解を深める。

＜授業の到達目標＞
・幼児や児童の発達の特性を踏まえた教育方法の理論が理解できる。
・接続期の教育のあり方を理解し、幼保小連携の具体的な事例を通して指導技術を身に付ける。
・情報機器の効果的な活用、ＩＣＴ教育の活用についての知識を習得する。

＜授業方法＞
テキストの内容に準じて講義を進める。本時の課題提示後、自力思考を経由してから講義を行う。必要に応じてグループワークを取り入れ協働的に学ぶ方法も採り入れる。授業の最後にはリフレクションタイムをとり、授業の振り返りを行う。

＜授業計画＞
第1回　授業ガイダンス
第2回　教育の方法と技術の意義「方法を考える時に大切なこと①」（テキスト第1章）
第3回　子どもの発達段階と教育「方法を考える時に大切なこと②」
第4回　遊びや関わりを生かして教育する方法　（テキスト第2章、4章）
第5回　子どもが育つ環境を作る方法を探る　（テキスト第3章）
第6回　遊びや関わりを生かして教育する方法　（テキスト第6章）
第7回　気になる子どもへの指導・支援の方法　（テキスト第8章）
第8回　記録から方法を探る　（テキスト第9章）
第9回　連携という方法を探る　（テキスト第10章）
第10回　学びの連続性　接続期カリキュラム①　幼稚園におけるアプローチカリキュラムの実践例
第11回　学びの連続性　接続期カリキュラム②　小学校におけるスタートカリキュラムの実践例
第12回　ＩＣＴを活用した教育の方法と技術
第13回　方法の探究　「保育者として人間として」　（テキスト第11章）課題レポートの作成
第14回　演習のまとめ　ポスターセッション
第15回　前期末テスト　最終講義

＜授業時間外学修＞
・授業前の準備学習としてテキストの指定されたところを読む
・授業後のノート整理、定着確認学習（クラスルームのスライドを活用する）

＜テキスト＞
保育方法の実践的理解（久富陽子、梅田優子）萌文書林　2018年　第2版

＜教科書・参考資料＞
幼稚園教育要領　（平成２９年３月告示　文部科学省）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領　（平成２９年３月告示　内閣府・文部科学省・厚生労働省）
保育所保育指針　（平成２９年３月告示　厚生労働省）

＜成績評価＞
授業の振り返り学習とコメント（50%）　確認試験（50%）

＜備考＞
特になし。

教育課程総論			濱野　陽子	
必修科目	講義	2 単位	1 年次	単独
教員養成課程の区分	教育の基礎理念に関する科目「教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）」			
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目「保育の計画と評価」			
担当教員の実務経験	幼稚園教諭（幼稚園 31 年）保育士（保育所 2 年）			

＜授業概要＞
・保育、幼児教育における教育課程の基本的知識を習得し、保育計画の作成について学ぶ。
・就学前教育の独自性を理解し、子どもを主体とする保育計画の作成方法を習得する。

＜授業の到達目標＞
① 保育、幼児教育の基本的な理念及び教育課程の意義と編成について理解する。
② 子どもの姿、発達過程、保育内容をもとに実際に指導計画を作成することを通して、保育記録、指導計画、保育の実践、評価、指導計画の改善の過程を学び、子ども一人ひとりに対する適切な援助について考える。

＜授業方法＞
グループワーク、ディスカッション

＜授業計画＞
第 1 回　保育における計画の意義「教育課程とは」
第 2 回　保育におけるカリキュラムとは「物語る」ことの意味を探る
第 3 回　保育の基本と計画①「環境を通した保育」
第 4 回　保育の基本と計画②「遊びを通した保育」
第 5 回　指導計画の作成の基本とその方法について①長期の指導計画
第 6 回　指導計画の作成の基本とその方法について②短期の指導計画
第 7 回　保育所、認定こども園の理解
第 8 回　乳児の特徴と指導計画
第 9 回　幼稚園の理解
第 10 回 幼児の特徴と指導計画
第 11 回 Web を使った指導計画
第 12 回 保育の実践と評価①「計画、実践、評価、改善という一連の流れを理解する。」
第 13 回 保育の実践と評価②「保育実践の振り返り　ドキュメンテーションを通して」
第 14 回 小学校との接続
第 15 回 本授業の振り返り及びまとめ

＜授業時間外学修＞
授業ノートを整理し内容の確認を行い、前回の授業内容は次回までに理解する努力をし、不明点は受講生間での協同学習や自主学習で解消しておくこと。

＜テキスト＞
幼稚園教育要領（平成29年3月告示文部科学省）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示内閣府・文部科学省・厚生労働省）
保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示厚生労働省）

＜参考書・参考資料＞
『教育課程・保育の計画と評価』-書いて学べる指導計画-岩崎淳子他　2018 年
『教育・保育カリキュラム論』千葉武夫他　2019 年

＜成績評価＞
① 期末試験（60%）②提出物（10%）③授業態度（30%）総合的に評価する。

＜備考＞
特になし

教育学			川久保　学	
必須科目	講義	2単位	1年次	単独
教員養成課程の区分	―			
保育士養成課程の区分	教養科目「外国語、体育以外の科目」			
担当教員の実務経験	高校教員３７年　大学講師１３年			

＜授業概要＞
「何をどう教えるか」は分野によって違うが、「人にものを教える」のは皆同じである。教育学ではこの「人にものを教える」ことを問題にする。人間、特に子どもをどう捉えるかによって、教育の性質は変わる。教育史上特筆すべき教育思想家が目指した人間の在り方を振り返りつつ、教育とはどういうものかを検討する。

＜授業の到達目標＞
教育の根幹をなす幼児・子ども期の教育及び保育について、それが子ども観や教育観といった形で時代的・社会的、あるいは思想的影響下にあることを理解し、幼児教育・保育に携るとはどういうことなのかを考察する。

＜授業方法＞
パワーポイントによる講義形式

＜授業計画＞
第1回　コメニウスの教育思想（汎知主義/人間の自然/教育印刷術）
第2回　ルソーの教育思想（エミール/自然人/消極教育）
第3回　カントの教育思想（自然的教育/人間形成/世間的怜悧）
第4回　ペスタロッチの教育思想（生活陶冶/隠者の黄昏/直観教授）
第5回　フレーベルの教育思想Ⅰ（人間の教育/恩物/キンダーガルテン）
第6回　フレーベルの教育思想Ⅱ（母の歌と愛撫の歌/子どもたちに生きる）
第7回　ロマン主義の教育思想（フィヒテ/シェリング/シュタイナー）
第8回　モンテッソーリの教育思想Ⅰ（感覚教育/敏感期/イタール）
第9回　モンテッソーリの教育思想Ⅱ（カーサデイバンビニ/教具）
第10回　デューイの教育思想Ⅰ（経験と自然/実験学校/プラグマティズム）
第11回　デューイの教育思想Ⅱ（なすことによって学ぶ/道具主義）
第12回　オーベルリーンの社会事業（編物学校/母親学校/ナーサリースクール）
第13回　オーウェンの社会事業（性格形成学院/セツルメント運動）
第14回　日本の幼児教育の歩み（倉橋惣三/大正自由主義教育）
第15回　日本の保育の歩み（石井十三/石井亮一/石井筆子/野口幽香）

＜授業時間外学修＞
授業後提示される課題レポート作成（60時間）

＜テキスト＞
授業時に配布

＜参考書・参考資料＞
なし

＜成績評価＞
期末／演習／演習

＜備考＞
特になし。

教育原理			太田　淳平	
必修科目	講義	2単位	1年次	単独
教員養成課程の区分	教育の基礎的理解に関する科目「教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想」			
保育士養成課程の区分	保育の本質・目的に関する科目「教育原理」			
担当教員の実務経験	―			

＜授業概要＞
①教育・公教育・こどもについて、歴史的な視点から、理解する。
②近代教育思想をおさえるとともに、公教育制度の成立及び国民国家との関係性について西洋と日本の歴史をもとに理解する。
③教師を取り巻く課題をはじめ、現在の教育課題について学び、自分自身の回答を導く。

＜授業の到達目標＞
本授業は、教育の原理・思想について学ぶとともに、現在の教育課題についての理解を深めることを目的とする。しかしそのことにとどまらず、現代の日本及び世界の教育現場が抱える諸課題に対して、他者との対話もしながら、自分自身の回答を考えてもらいたい。

＜授業方法＞
講義形式だが、ディスカッションなどの活動も行う予定である。

＜授業計画＞
第1回　オリエンテーション：教育とは
第2回　子ども・家庭・社会
第3回　公教育とは
第4回　近代教育思想（ロック・ルソー・カント）
第5回　近代教育思想（ペスタロッチ・フレーベル・ヘルバルト・デューイ）
第6回　近代学校の成立（西洋）
第7回　新教育の思想
第8回　日本における学校教育の歴史(戦前)
第9回　日本における学校教育の歴史(戦後)
第10回　教師とは
第11回　学力とは
第12回　西洋の教育実践
第13回　日本の教育実践
第14回　近年の教育課題
第15回　まとめ：教育とは

＜授業時間外学修＞
事前にテキストや配布資料で予習することを薦める。

＜テキスト＞
木村元・汐見稔幸編『アクティベート教育学01　教育原理』ミネルヴァ書房、2020年。

＜参考書・参考資料＞
鈴木理恵・三時眞貴子編『教師教育講座第2巻　教育の歴史・理念・思想』協同出版、2014年。
藤井千春編『時代背景から読み解く西洋教育思想』ミネルヴァ書房、2016年。
平井悠介・曽余田浩史編『新・教職課程演習第1巻　教育原理・教職原論』協同出版、2021年。

＜成績評価＞
①小レポート・小テスト（30%）
②期末試験（70%）
①と②で総合的に判断する。

＜備考＞
特になし。

教育行政			太田　淳平	
必修科目	講義	2単位	2年次	単独
教員養成課程の区分	教育の基礎的理解に関する科目「教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）」			
保育士養成課程の区分	学校独自の科目			
担当教員の実務経験	―			

＜授業概要＞
日本の教育行政の仕組みや教育に関する法律について、その基本的な内容やその歴史について理解する。さらに、保育の現場と教育行政、および地域との連携のあり方について学ぶ。

＜授業の到達目標＞
教育関係法規や教育制度・保育制度について理解する。その上で、法律や制度によって保障されている子どもの権利や安全などについて理解する。さらに制度の中で、保育者としてどのような役割が期待されているのか理解を深め、自分の言葉で説明できるようにする。

＜授業方法＞
講義中心で行うが、ディスカッションなどの活動も行う予定である。

＜授業計画＞
第1回　オリエンテーション
第2回　教育制度・保育制度の歴史
第3回　子どもの権利条約
第4回　教育制度：教育基本法・学校教育法
第5回　保育制度：児童福祉法
第6回　就学前教育行政と幼稚園・保育所・認定こども園
第7回　教育委員会と現場
第8回　学校と地域の連携
第9回　学校・保育の安全
第10回　地方教育政治・行政
第11回　教育・保育士に関する行政
第12回　幼稚園教育要領を読む
第13回　保育所保育指針を読む
第14回　幼保連携型認定こども園教育・保育要領を読む
第15回　まとめ＆期末試験

＜授業時間外学修＞
テキスト及び配布資料をもとに予習することを薦める。

＜テキスト＞
青木栄一編『アクティベート教育学 02 教育制度を支える教育行政』ミネルヴァ書房、 2019年。

＜参考書・参考資料＞
特になし。

＜成績評価＞
①小レポート・小テスト（30%）
②期末試験（70%）
①と②で総合的に判断する。

＜備考＞
特になし。

教育実習			岸本圭子・甲田美香・太田淳平	
必修科目	演習	4 単位	2 年次	複数
教員養成課程の区分	教育実践に関する科目「教育実習」			
保育士養成課程の区分	学校独自の科目			
担当教員の実務経験	岸本：幼稚園教諭(幼稚園・20 年)、甲田：幼稚園教諭(幼稚園・16 年)			

＜授業概要＞
・幼稚園教諭免許取得のための実習として、幼稚園や認定子ども園において観察・参加実習を行う。
・幼稚園での実習を通じて、幼児理解を深めるとともに、幼稚園の機能および教諭の職務について実践的に学ぶ。
・教育現場での実践を通じて、教員としての資質能力、実践的指導力を体得する責任実習を行う。

＜授業の到達目標＞
1、幼稚園・認定子ども園の役割や機能を具体的に理解する。
2、観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。
3、既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に理解する。
4、保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。
5、幼稚園教諭の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。

＜授業方法＞
幼稚園・認定こども園で、9 月～原則一日 8 時間 20 日間実習を実施する。

＜授業計画＞
1. 幼稚園・認定子ども園の役割と機能
（1）幼稚園・認定子ども園の生活と一日の流れ
（2）幼稚園・認定子ども園の役割と機能
2. 園児の理解
（1）園児の観察とその記録
（2）個々の状態に応じた支援や関わり
3. 教育内容・生活環境
（1）計画に基づく活動や支援
（2）園児の心身状態に応じた対応
（3）園児の活動と生活環境
（4）健康管理と安全対策の理解
4. 計画と記録
（1）指導計画の理解と活用
（2）記録に基づく省察・自己評価
5. 専門職としての教諭の役割と倫理
（1）教諭の業務
（2）職員間の役割分担や連携
（3）教諭の役割と職業倫理

＜授業時間外学修＞
理論と実践の具体的相互関係を学び、保育者としてのあり方を学ぶ。また、日々の実習を振り返りながら、実習の内容を日誌に記録し、それをもとに次の日の準備や指導案作成・準備をする。

＜テキスト＞
小櫃 智子 ほか「幼稚園、保育所、認定こども園実習 パーフェクトガイド」わかば社
「実習の手引き」　聖ヶ丘教育福祉専門学校　編

＜参考書・参考資料＞
「幼稚園教育要領解説　(平成 30 年 3 月)」文部科学省
「保育所保育指針解説　(平成 30 年 3 月)」厚生労働省
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説　(平成 30 年 3 月)」内閣府・文部科学省・厚生労働省

＜成績評価＞
実習先の評価に基づく実習指導部の評価　40%
実習日誌などの評価　60%

＜備考＞
教育実習指導の単位取得には、通常の出席要件に加えて事前指導および事後指導それぞれの授業回数の 3 分の 2 以上に出席すること、および教育実習の単位修得が必要となる。

教育実習事前事後指導（幼稚園）			岸本圭子・甲田美香・太田淳平	
必修科目	演習	1単位	2年次	複数
教員養成課程の区分	教育実践に関する科目「教育実習」			
保育士養成課程の区分	学校独自の科目			
担当教員の実務経験	岸本：幼稚園教諭(幼稚園・20年)、甲田：幼稚園教諭(幼稚園・16年)			

＜授業概要＞
事前指導では、幼稚園教育の基本や実習の意義・目的・内容・方法を理解し、幼稚園教諭にふさわしい態度や心構え、記録の取り方や指導計画の立て方 を学び、実習を円滑に進めて行くための知識・技術を習得する。 事後指導では、実習のねらいや自己の実習目標に照らし振り返り、自己評価を行い、今後の課題を明確にする。

＜授業の到達目標＞
1 実習の基本的理解
2 幼稚園教育の理解と保育の方法
3 幼稚園教育の実践的課題を学ぶ
4 保育者に望まれる資質と実習生の心得

＜授業方法＞
テキストやプリントに加え、視覚教材、事例やグループワークなどを通して、体験的実践的に知識や技術を身につける。

＜授業計画＞
第1回：オリエンテーション（振り返りながら、教育実習に向けて目的を持つ）
第2回：幼稚園の一日の流れ（VTRを見ながら幼稚園の一日の流れを把握しながらレポートに書く）
第3回：実習の手引き解説（教育実習の目的・ねらい）
第4回：実習の手引き解説（実習の目的やねらいを達成するために実習生として、何を心掛けるべきか）
第5回：身上書の書き方（実習をさせていただくという気持ちで記入する）
第6回：オリエンテーションを受けるに当たり（実習生としての心構え）
第7回：実習日誌の書き方①（「本日の実習課題」の立て方について）
第8回：実習日誌の書き方②（園の概要の書き方、注意すること）
第9回：実習日誌の書き方③（「一日の流れ」…子どもの活動・保育者の援助の流れについて）
第１０回：実習日誌の書き方④（「一日の流れ」…気づきや考察の考え方）
第１１回：指導案の作成①（部分実習と責任実習の違い、内容の考え方）
第１２回：指導案の作成②（ねらいや環境構成の考え方）
第１３回：指導案の作成③（実際に日案の立案をする）
第１４回：実習直前の指導（実習生としての心構えの確認）
第１５回：事後指導 （振り返りと課題確認）
定期試験

＜授業時間外学修＞
教材研究や提出書類の準備などを行う。

＜テキスト＞
小櫃 智子 ほか「幼稚園、保育所、認定こども園実習 パーフェクトガイド」わかば社
「実習の手引き」 聖ヶ丘教育福祉専門学校 編

＜参考書・参考資料＞
「幼稚園教育要領解説 （平成30年3月）」文部科学省
「保育所保育指針解説 （平成30年3月）」厚生労働省
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 （平成30年3月）」内閣府・文部科学省・厚生労働省

＜成績評価＞
提出物80%・実習前後の報告20%

＜備考＞
教育実習指導の単位取得には、通常の出席要件に加えて事前指導および事後指導それぞれの授業回数の3分の2以上に出席すること、および教育実習の単位修得が必要となる。

教育心理学			黒石　憲洋	
必修科目	演習	1 単位	1 年次	単独
教員養成課程の区分	教育の基礎的理解に関する科目「幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程」			
保育士養成課程の区分	学校独自の科目			
担当教員の実務経験	－			

＜授業概要＞
教育を考える上で必要となる心理学の基礎概念・用語について理解するとともに、子どもの発達や成長、学習やその個人差を見極めて支えていく上で必要となる考え方として、心理学的な理論や評価や介入の仕方について学習する。

＜授業の到達目標＞
1. 学習についての歴史的な考え方について理解する。
2. 学習を支える動機づけに関する理論を理解し、子どもの動機づけを高める働きかけや介入の仕方を検討する視点を習得する。
3. 行動における個人差としてのパーソナリティに関する考え方を理解する。
4. 教育における評価のあり方について理解し、その影響について検討する視点を習得する。

＜授業方法＞
講義、アクティビティ、グループ・ディスカッション、発表などを組み合わせておこなう。

＜授業計画＞
第 1 回：ガイダンスとイントロダクション：講義の概要、教育心理学で学ぶこと
第 2 回：教育とは：教育と保育、教育と学習、遺伝と環境
第 3 回：学習理論①：行動主義（古典的条件づけとオペラント条件づけ）
第 4 回：学習理論②：認知主義
第 5 回：学習理論③：状況主義
第 6 回：動機づけ理論①：欲求理論、達成動機理論、原因帰属理論、目標理論
第 7 回：動機づけ理論②：学習性無力感理論、自己効力理論
第 8 回：動機づけ理論③：認知的評価理論、自己決定理論
第 9 回：パーソナリティ理論①：類型論的理解
第 10 回：パーソナリティ理論②：特性論的理解
第 11 回：パーソナリティ理論③：愛着型とその発達
第 12 回：教育における評価①：絶対評価、形成的評価、ルーブリックとポートフォリオ
第 13 回：教育における評価②：教育における認知的バイアス
第 14 回：新しい学習の形態：協同学習、アクティブラーニング
第 15 回：試験および全体のまとめ

＜授業時間外学修＞
事後学修として、授業ノートを整理し、内容の確認をおこなう。前回の授業内容は、次回までにしっかりと理解しておくこと。不明な点については、自主学習や受講生間の協同学習、教員への質問などにより必ず解消しておくこと。

＜テキスト＞
テキストは特に使用しない。必要に応じて講義中に資料を配付する。

＜参考資料＞
市川伸一（1995）. 学習と教育の心理学 岩波書店
レイブ・ウェンガー（1993）. 状況に埋め込まれた学習：正統的周辺参加 産業図書
スティペック（1990）. やる気のない子どもをどうすればよいか 二瓶社

＜成績評価＞
授業内で実施する期末試験において、合格点（100 点満点中、60 点以上）を満たせば、単位を認定する。

＜備考＞
特になし。

教育相談論 A			殿塚　貴史	
必修科目	演習	1 単位	2 年次	単独
教員養成課程の区分	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目「教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法」			
保育士養成課程の区分	―			
担当教員の実務経験	東京都世田谷区の中学校での心理相談員・メンタルクリニックでの心理アセスメント			

＜授業概要＞
保育現場の日常を客観的に見て、知るところから始まり、徐々に現代の子どもがかかえる悩みごと、困りごとに対してどのように把握し、介入していけるか、具体的にはカウンセリングの技術について講義と演習で学んでいく。

＜授業の到達目標＞
学校における教育相談の意義と理論を理解する。・教育相談に関わる心理学の基礎的な理論・概念を理解している。・教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事柄を含む）を理解する。・学校教育におけるカウンセリングマインドの必要性を理解している。　・受容・傾聴・共感的理解等のカウンセリングの基礎的な姿勢や技法を理解している。

＜授業方法＞
講義を中心に行うが適宜ディスカッションやグループワーク、体験学習等も行う予定。
板書した内容は必ずノートにとること。その内容がそのまま試験に出ます。

＜授業計画＞
第　1回：オリエンテーション、教育相談概論　とは何か　子どもとはどんな存在か
第　2回：心理学の分類と学校心理学
第　3回：　精神医学と臨床心理学
第　4回：臨床心理学の基礎理論 1 精神力動理論
第　5回：臨床心理学の基礎理論 2　認知行動理論
第　6回：臨床心理学の基礎理論 3 人間性心理学
第　7回：臨床心理学の基礎理論 4　コミュニティアプローチ・家族療法
第　8回：アセスメントとは何か
第　9回：アセスメントの方法 1・行動観察法
第１０回：アセスメントの方法 2・面接法
第１１回：アセスメントの方法 3・心理検査法　質問紙・作業検査・投影法
第１２回：不適応・精神疾患・発達障害の違い
第１３回：心理社会的ストレスとは何か
第１４回：パーソナリティと病前性格
第１５回：期末試験とまとめ

＜授業時間外学修＞
授業時間内で学習した心理アセスメントの方法(面接法や検査法など)に関して家族や友人に対して実践してみることで対象者の理解の仕方を習得できるようにしていく。

＜テキスト＞
教育相談　第 2 版（Next 教科書シリーズ）　弘文堂　津川律子　山口義枝　北村世都　編

＜参考書・参考資料＞
特になし。

＜成績評価＞
授業中の態度や積極性 40%　期末試験 60%

＜備考＞
特になし。

教育相談論 B			殿塚　貴史	
必修科目	演習	1 単位	2 年	単独
教員養成課程の区分	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目「教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法」			
保育士養成課程の区分	―			
担当教員の実務経験	東京都世田谷区の中学校での心理相談員 メンタルクリニックでの心理アセスメント			

＜授業概要＞
子どもの特徴をどう捉えてみると良いのかを考え、次いで、子どもたちを取り囲む背景、広義の教育相談としてどのように子ども たちを「相談支援」という形で守って見届けていけるかを養う理解力を深めていく。

＜授業の到達目標＞
授業の到達目標及びテーマ　・いじめ、不登校・不登園、虐待、非行等の課題に対する、幼児、児童及び生徒の発達段階や発達課題に応じた教育相談 の進め方を理解している。　・教育相談の基礎となるコミュニティアプローチの内容と方法を理解している。　・地域の医療・福祉・心理等の専門機関との連携の意義や必要性を理解している。

＜授業方法＞
講義を中心に行うが適宜ディスカッションやグループワーク、体験学習等も行う予定。
板書した内容は必ずノートにとること。その内容がそのまま試験に出ます。

＜授業計画＞
第 1 回：オリエンテーション、学校心理学とコミュニティアプローチ
第 2 回：ロジャーズの 3 つの態度要件とカウンセリングマインド
第 3 回：子ども理解 1　子どもの自己表現能力　自己開示と自己呈示
第 4 回：子ども理解 2　 乳幼児期の発達的特徴
第 5 回：子どもと環境 1　虐待と関連機関
第 6 回：子どもと環境 2　外傷体験・喪失体験
第 7 回：子どもと環境 3　保護者が育児の困る時
第 8 回：子どもと環境 4　保育者自身のメンタルケア
第 9 回：園で教育相談を行なうときに気をつけること
第 10 回：園から学校への橋渡しで気をつけること
第 11 回：通常の幼児教育の業務と教育相談との違い
第 12 回：コミュニティアプローチの方法 1
第 13 回：コミュニティアプローチの方法 2
第 14 回：コミュニティアプローチの方法 3
第 15 回　期末試験とまとめ

＜授業時間外学修＞
授業時間内で学習した心理アセスメントの方法(面接法や検査法など)に関して家族や友人に対して実践してみることで対象者の理解の仕方を習得できるようにしていく。

＜テキスト＞
教育相談　第 2 版（Next 教科書シリーズ）　弘文堂　津川律子　山口義枝　北村世都　編

＜参考書・参考資料＞
特になし。

＜成績評価＞
授業中の態度や積極性 40%　期末試験 60%

＜備考＞
特になし。

教職概論			太田　淳平	
必修科目	講義	2単位	2年次	単独
教員養成課程の区分	教育の基礎的理解に関する科目「教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）」			
保育士養成課程の区分	保育の本質・目的に関する科目「保育者論」			
担当教員の実務経験	―			

＜授業概要＞
本授業では、教職および保育者の社会における位置付けや、役割、資質能力、協働などについて学ぶ。社会の変化とともに、教職への期待や眼差しも大きく変化することを理解してもらう。

＜授業の到達目標＞
教職・保育者の役割や意義、求められている資質能力について理解を深める。さらに保育者の専門性とはどのようなものかを理解する。それにとどまらず、自分自身がどのような教育者・保育者を理想とするのか考え、言語化できるようになる。

＜授業方法＞
講義中心で行うが、ディスカッションなどの活動も行う予定である。

＜授業計画＞
第1回　オリエンテーション
第2回　教職とは何か・保育者とは何か（役割）
第3回　教職のための制度
第4回　教職・保育者の歴史的変遷
第5回　幼稚園教諭・保育士の1日
第6回　子どもの内面や発達を理解する
第7回　子どもの遊びを援助する
第8回　個と集団を生かす
第9回　家庭や地域との連携・支援
第10回　多様な子どもの理解と支援
第11回　教材などを通して学びを深める
第12回　成長する保育者と同僚性
第13回　保育の専門性
第14回　保育者として子どもにどう向き合うか
第15回　まとめ＆期末試験

＜授業時間外学修＞
テキスト及び配布資料をもとに予習することを薦める。

＜テキスト＞
大豆生田啓友・秋田喜代美・汐見稔幸編『アクティベート保育学 02 保育者論』ミネルヴァ書房、2019年。

＜参考書・参考資料＞
①佐久間亜紀，佐伯胖編著『アクティベート教育学2 現代の教師論』ミネルヴァ書房、2019年。
②吉田武男編著『MINERVAはじめて学ぶ教職2 教職論』ミネルヴァ書房、2019年。

＜成績評価＞
①小レポート・小テスト（30%）
②期末試験（70%）
①と②で総合的に判断する。

＜備考＞
テキスト以外に、〈教科書・参考資料〉①『アクティベート教育学2 現代の教師論』の内容も踏まえた授業展開を予定しているため、参照することを勧める。

健康			蛯原　正貴	
必修科目	演習	1単位	1年次	単独
教員養成課程の区分	領域及び保育内容の指導方法に関する科目「保育内容の指導方法(情報機器及び教材の活用を含む)」			
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目「保育内容演習」			
担当教員の実務経験	―			

＜授業概要＞
この科目では、保育所保育指針に示される「健康」領域に関して理解を深めるとともに、基本的生活習慣や運動遊び、疾病の予防や安全管理などの子どもが健康に育つために必要な知識について解説を行う。特に、運動不足の解消やアレルギー対応などの現代的課題については、最新のデータを基に情報機器等を用いながら授業を進める。

＜授業の到達目標＞
1．幼稚園教育要領、保育所保育指針及び幼保連携型認定こども園教育保育要領について理解し、健康の定義や健康課題について説明できる。
2．乳幼児期の体の諸機能の発達と生活習慣の形成を理解している。
3．乳幼児期の安全な生活と怪我や病気の予防について説明できる。
4．危険に関しリスクとハザードの違いを含む安全管理を理解している。
5．乳幼児期の日常生活における身体活動の在り方を説明できる。

＜授業方法＞
討議(ディスカッション・ディベート)、グループワーク、調べ学習

＜授業計画＞
第1回　領域「健康」についての理解（「健康」の意義と現代的課題の把握）
健康の意義について理解し、現代の健康問題について把握する。
予習：「健康」の意義について調べておく（30分）。
復習：健康の意義、現代の課題についてまとめる（30分）。

第2回　領域「健康」のねらい及び内容
発達段階別の領域「健康」のねらい、内容について学ぶ。
予習：領域「健康」とはどのような領域なのか調べておく（30分）。
復習：発達段階別の「健康」のねらい、内容についてまとめる（30分）。

第3回　乳幼児期の身体的発達
乳幼児期の身体的発達の特徴についてデータを基に理解する。
予習：乳幼児期の発達曲線について調べておく（30分）。
復習：乳幼児期の発達の特徴について、データの読み取りを含めてまとめる（30分）。

第4回　乳幼児期の基本的生活習慣
基本的生活習慣の発達の特徴について学ぶ。
予習：基本的生活習慣とは何なのか調べておく。(30分)。
復習：基本的生活習慣の発達の特徴についてまとめる（30分）。

第5回　乳幼児期の「食を営む力」
乳幼児期の食育の意義について学ぶ。
予習：幼児期の食育とは何か調べておく（30分）。
復習：食育について理解し、実践的取り組みについてまとめる（30分）。

第6回　乳幼児期における運動の特徴及び周囲との関わり
具体的な乳幼児期の遊びについて理解し、周囲との関わりを含めた遊びの内容について学ぶ。
予習：乳幼児期における運動の特徴について調べておく（30分）。
復習：授業内容を振り返り、乳幼児期の具体的な遊び例についてまとめる（30分）。

第7回　遊びとしての運動の重要性
運動遊びの有効性、重要性について学ぶ。
予習：運動遊びの有効性について調べておく（30分）。
復習：運動遊びの重要性についてまとめる（30分）。

第8回　乳幼児の心の安定
乳幼児期の精神的発達について理解し、その関わり方について学ぶ。
予習：乳幼児期の精神的発達について調べる（30分）。
復習：授業内容を振り返りながら、具体的な関わり方について学ぶ（30分）。

第 9 回　慢性疾患を含む疾病の予防及び対応
乳幼児期の疾病やケガの特徴を理解し、対応について学ぶ。
予習：乳幼児期に発病しやすい疾病について調べておく（30 分)。
復習：乳幼児期注意すべき疾病とその対応についてまとめる（30 分)。

第 10 回　保育環境と安全
安全な保育環境について、具体例を見ながら学ぶ。
予習：安全な保育環境はどのようなものなのか調べ、考えておく（30 分)。
復習：安全な保育環境を構築するための方法、考え方についてまとめる（30 分)。

第 11 回　領域「健康」の変遷及び小学校との連携
領域「健康」の変遷から小学校の連携について時系列に学ぶ。
予習：領域「健康」がつくられた背景について調べておく（30 分)。
復習：これからの保育者が求められることについて考え、まとめる（30 分)。

第 12 回　運動遊びを含む身体活動の在り方について
現代における身体活動の在り方について、日常生活を例に学ぶ。
予習：現在の自分自身の運動習慣について振り返っておく（30 分)。
復習：これから必要となっている身体活動についてまとめる（30 分)。

第 13 回　健康を育む指導案の作成
これまでの授業内容を踏まえた指導案の作成を行う。
予習：これまでの授業内容を振り返っておく（30 分)。
復習：指導案作成において注すべき点をまとめる（30 分)。

第 14 回　指導案の発表及び共有
作成した指導案を発表し、共有する。
予習：指導案を作成しておく（30 分)。
復習：質疑応答で指摘された点をまとめ、改善点を考える（30 分)。

第 15 回　まとめ
これまでに学んだことをレポートにまとめ、振り返りを行う。
予習：14 回までに学んだことを振り返っておく（30 分)。
復習：レポートにまとめた内容の活用方法について考える（30 分)。

＜授業時間外学修＞
上記＜授業計画欄＞参照。

＜テキスト＞
特になし。

＜参考書・参考資料＞
幼稚園教育要領(平成 29 年 3 月告示 文部科学省)
幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成 29 年 3 月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省)
保育所保育指針(平成 29 年 3 月告示 厚生労働省)

＜成績評価＞
幼稚園教育要領や保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領等を踏まえた「健康」の内容に関する小レポートを毎時間実施：60%
健康的なからだづくりを促進するための保育のありかたを問うレポート：20%
運動遊びに関する指導案の作成：20%

＜備考＞
レポートの提出や連絡事項については、Googleclassroom を使用します。
第 1 回の授業でも説明をしますが、可能であれば、Googleclassroom のアプリをダウンロードしておいてください。(スマートフォンをお持ちでない方は初回の授業時にご相談ください。)

言葉			西山　国江	
必修科目	演習	1単位	1年次	単独
教員養成課程の区分	領域及び保育内容の指導方法に関する科目「保育内容の指導方法(情報機器及び教材の活用を含む)」			
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目「保育内容演習」			
担当教員の実務経験	保育士・幼稚園教諭養成校に教員として勤務			

＜授業概要＞

保育において育みたい幼児の資質・能力について学ぶとともに、領域「言葉」のねらい及び内容についての理解を深める。また、幼児の言葉の発達に即した言葉遊びや児童文化財を適宜活用する技術を体験的に学び、実践力を養う。

＜授業の到達目標＞

・領域「言葉」のねらい及び内容を理解する。
・幼児の発達にともなう児童文化財の意義を理解する。
・言葉遊びや児童文化財を活用し、実践力を養う。

＜授業方法＞

・視覚教材を使用する。
・グループワークや発表を通して、理解を深め技術を修得する。

＜授業計画＞

第1回　　オリエンテーション/言葉について
第2回　　言葉の獲得・仕組みについて
第3回　　日本語の特徴について
第4回　　言葉遊び/カード作り
第5回　　児童文化財①[おはなし]
第6回　　児童文化財②[紙芝居]
第7回　　児童文化財③[絵本]
第8回　　児童文化財④[絵本と子ども]/児童文化財の振り返り
第9回　　領域「言葉」
第10回　子どもの発達と言葉
第11回　前言語期のコミュニケーションと保育
第12回　話し言葉の機能と発達
第13回　書き言葉の発達と保育/言葉の振り返り
第14回　言葉に関する諸問題
第15回　言葉を育む保育の構想・現代社会と言葉

＜授業時間外学修＞

授業内容を確認し、理解の定着を図る。課題を行う。

＜テキスト＞

保育学生のための「幼児と言葉」「言葉指導法」　馬見塚昭久/小倉直子[編著]　　ミネルヴァ書房

＜参考書・参考資料＞

・幼稚園教育要領（平成29年3月告示　文部科学省）
・幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示　内閣府・文部科学省・厚生労働省）
・保育所保育指針（平成29年3月告示　厚生労働省）

＜成績評価＞

試験30%　課題50%　レポート10%　作品10%

＜備考＞

特になし

子どもの健康と安全			遠藤　由美子	
必修科目	演習	１単位	２年次	単独
教員養成課程の区分	―			
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目「子どもの健康と安全」			
担当教員の実務経験	小児科（1 年）救急救命センター（3 年）相模原市保健予防課子どもの健診(17 年)			

＜授業概要＞

健康状態の観察、 子どもの身体測定、 生理機能の測定、 精神・運動発達機能の評価と記録の方法等演習を通して理解する。 また、災害時の対応や対策、緊急時の対応等の方法等子どもが成長する過程で保険対応として必要な対応の技術を習得する。

＜授業の到達目標＞

保育における保健的な視点からから、保育環境や援助について知識を深める。また、各種ガイドラインを用いた、安全対策を保育の視点で理解する。さらに、子どもの健康や安全の管理について組織的取り組みや保健活動の計画や評価方法について具体的に理解する。

＜授業方法＞

配布された資料に従い、演習を行いながら学習を進める。授業により、ICT を活用し質問形式、発表形式、調べ作業、レポート作成を実施する。

＜授業計画＞

第 1 回　　オリエンテーション　子どもの健康と保育環境
第 2 回　　子どもの保健に関する個別対応と集団全体の健康及び安全の管理（課題　1）
第 3 回　　保育における衛生管理 （課題　2）
第 4 回　　保育における事故防止と安全対策、危機管理 （課題　3）
第 5 回　　保育における災害への備え （液体ミルクや使い捨て哺乳瓶）（課題　4）
第6回　　体調不良及び障害発生時の応急処置と対応（課題　5）
第7回　　救急処置及び救急蘇生法 （AEDの使用方法）（課題　6）
第 8 回　　感染症の集団発生の予防と発生後の対応（ノロウイルスの対応・手袋のはめ方・外し方おむつの捨て方） （課題　7）
第 9 回　　保育における保健的対応（課題　8）
第10回　　３歳児未満児への対応 （子どもの扱い方）（課題　9）
第 11 回　　個別的な配慮を要する子どもへの対応（慢性疾患・アレルギー性疾患）（課題　１０）
第12回　　障害のある子どもへの対応 （歯磨きの仕方）（課題　１１）
第 13 回　　職員間の連携・協働と組織的取り組み（家庭・専門機関・地域の関係機関）（課題　１２）
第14回　　保育における保健活動の計画及び評価（成果物）
第 15 回　　心豊かな子どもに育てるために（成果物）

＜授業時間外学修＞

授業１～１５において家庭学習（課題への取り組み：60 分、事前配布の資料の印刷や目を通すなどの準備、授業後プリントの完成と調べ作業等家庭学習へ取り組みクラスルームより提出）

＜テキスト＞

保育者養成シリーズ　子どもの健康と安全　林邦雄・谷田貝公昭監修　　株式会社　一藝社

＜参考書・参考資料＞

保育所保育指針解説平成２９年３月告示　厚生労働省

＜成績評価＞

学生に対する評価：①提出課題合計９６点（課題１～１２が各８点、ミニテスト含む）②成果物評価　４点
＊授業を欠席した際には、その授業の課題は原則として評価対称としない。ただし、提出物の受理は行う。
＊課題は、毎授業で基本課される。

① ②を合計で１００点。８０点以上「優」、７０～７９点「良」、６０～６９点「可」、５９点以下「不可」とする。

＜備考＞

特になし

子どもの食と栄養 A			松本　辰子	
必修科目	演習	1 単位	2 年次	単独
教員養成課程の区分	－			
保育士養成課程の区分	保育の対象の理解に関する科目「子どもの食と栄養」			
担当教員の実務経験	管理栄養士（病院 7 年・小学校 23 年）　栄養教諭（小学校 3 年）			

＜授業概要＞

子どもの心身共に健康な体づくりのために、発育発達という特徴を踏まえて食に関する基礎的な知識を学び、自らも望ましい食生活を実践できるようにする。また、保育における食育の重要性を理解し、保護者や子どもに指導ができる専門性を養う。

＜A の到達目標＞

・健康な生活を基本として食生活の意義や栄養に関する基本的知識を習得する
・子どもの発育・発達と食生活の関連について理解する
・家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について学ぶ
・特別な配慮を必要とする子どもの食と栄養について学ぶ

＜授業方法＞

・A は講義も多いが、その都度ディスカッション・調べ学習等を取り入れて演習を行う。

＜授業計画＞

第 1 回　○オリエンテーション（前期 A 後期 B の演習計画・授業の説明・評価方法・他）
　　○子どもの心身の健康と食生活
第 2 回　○子どもの食生活の現状と課題
第 3 回　○発育・発達の基本的知識　　○発育・栄養状態の評価
第 4 回　○栄養に関する基本的知識：栄養素の種類と機能〔炭水化物・脂質〕
第 5 回　○栄養に関する基本的知識：栄養素の種類と機能〔たんぱく質・ミネラル・ビタミン・水〕
第 6 回　○栄養に関する基本的知識：小児の食事摂取基準・献立作成と調理の基本
第 7 回　○食の衛生と安全：食中毒の原因とその特徴・食品の表示について
第 8 回　○食の衛生と安全：健康や栄養に関する表示の制度・食品添加物について
第 9 回　○家庭における食事と栄養　　○保育士による子どもの家庭支援
第 10 回　○児童福祉施設における食事と栄養
第 11 回　○保育施設における事故防止及び事故発生時の対応
第 12 回　○特別な配慮を要する子どもの食と栄養：体調不良の子どもへの対応
第 13 回　○食物アレルギーの基本的知識
第 14 回　○特別な配慮を要する子どもの食と栄養：保育所における食物アレルギーの対応
第 15 回　○前期のまとめ　　○前期のまとめ前期筆記試験

＜授業時間外学修＞

予習：あらかじめ教科書を読み、関心を高めておく
復習：振り返りシート等を用いて学習内容の理解を深める
その他：日々の食生活を振り返り、改善に努める　　子どもの食に関する報道等に関心を持つ

＜テキスト＞

・イラスト「子どもの食と栄養」（東京教学社）

＜参考書・参考資料＞

・保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示　厚生労働省）
・楽しく食べる子どもに～保育所における食育に関する指針（(厚生労働省雇用均等・児童家庭局保育課長 雇児保発第 0329001 号平成 16 年 3 月 29 日）

＜成績評価＞

筆記試験 70%　授業における提出課題等 30%

＜備考＞

特になし

子どもの食と栄養 B			松本　辰子	
必修科目	演習	1 単位	2 年次	単独
教員養成課程の区分	－			
保育士養成課程の区分	保育の対象の理解に関する科目「子どもの食と栄養」			
担当教員の実務経験	管理栄養士（病院 7 年・小学校 23 年）　栄養教諭（小学校 3 年）			

＜授業概要＞

子どもの心身共に健康な体づくりのために、発育発達という特徴を踏まえて食に関する基礎的な知識を学び、自らも望ましい食生活を実践できるようにする。また、保育における食育の重要性を理解し、保護者や子どもに指導ができる専門性を養う。

＜B の到達目標＞

・子どもの成長段階（ライフステージ）や身体状況に応じた栄養や食物の調理方法及び摂取方法について、実習を行いながら技術を習得する。
・食育の基本と内容を理解し、計画を立てて食育だよりを作成し、講師及び学生同士の講評を受けることで保護者や子どもに効果的に伝える方法を幅広く習得する。

＜授業方法＞

・B では実務面での技術の習得を目指して調理実習・演習を中心に授業を行う。

＜授業計画＞

第 1 回　○オリエンテーション（後期の演習計画・評価方法）　○献立作成と調理実習のしかた
第 2 回　○ライフステージ別の栄養と食生活　胎児期（妊娠期）
第 3 回　○胎児期（妊娠期）の献立作成
第 4 回　○ライフステージ別の栄養と食生活　乳児期・離乳期　○食べる機能の発達　嚥下・咀嚼
第 5 回　○調乳・初期の離乳食　調理実習
第 6 回　○ライフステージ別の栄養と食生活　幼児期の栄養・食支援
第 7 回　○補食としてのおやつ　調理実習
第 8 回　○ライフステージ別の栄養と食生活　学童期・思春期・成人期・高齢期・生涯発達
第 9 回　○食育の基本と内容　食育における養護と教育の一体性
第 10 回　○食育の基本と内容　食育のための環境・食育計画
第 11 回　○食育だより作成
第 12 回　○食育だより完成
第 13 回　○食育だより発表・講評
第 14 回　○食育だより発表・講評
第 15 回　○まとめ　　○筆記試験

＜授業時間外学修＞

予習：あらかじめ教科書を読み、実習の手順等を確認しておく
復習：実習を振り返りながら期日を守ってレポート等を作成する
その他：保育実習・教育実習の機会を逃さず子どもの食に関する様子をよく観察する

＜テキスト＞

・イラスト「子どもの食と栄養」（東京教学社）

＜参考書・参考資料＞

・保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示　厚生労働省）
・楽しく食べる子どもに～保育所における食育に関する指針（厚生労働省雇用均等・児童家庭局保育課長 雇児保発第 0329001 号平成 16 年 3 月 29 日）
・「保育現場の食育計画（アレルギー対応）」（栄養セントラル学院）

＜成績評価＞

筆記試験 40%　授業における提出課題等 60%

＜備考＞

特になし

子どもの保健			遠藤　由美子	
必修科目	講義	２単位	２年次	単独
教員養成課程の区分	―			
保育士養成課程の区分	保育の対象の理解に関する科目「子どもの保健」			
担当教員の実務経験	小児科（1 年）救急救命センター（3 年）相模原市保健予防課子どもの健診(17 年)			

＜授業概要＞
保育における子どもの保健の位置づけを理解し、健康な子どもを中心に、成長とともに変化する身体と精神の発達を学ぶ。更に、子どもが罹りやすい病気の対応と予防、先天的疾患、感染症、事故の予測と予防、対応について学び、個々の子どもの健康状態や保健上の問題を判断し適切に対応できる基本的知識を得る。また、子供の保健に関する制度と現状・課題について考える。以上について学び、資格取得に必要な知識や技術の習得を目的とする。

＜授業の到達目標＞
子どもの身体的・精神的発達の維持・増進を図る実践活動を行うために、健康な子どもの健やかな成長を基礎として、観察の力を医療的視点で磨くための知識を習得する。また、母子保健制度、 児童福祉法等の制度によって成長が支えられていることを理解する。更に心を育むことの重要性を自己の成長の経験を活用しつつ、保育者としての役割を理解する。

＜授業方法＞
配布された資料に従い、学習を進める。必要に応じて、質問形式、発表形式、調べ作業、レポート作成を実施する。

＜授業計画＞
第 1 回　オリエンテーション　子どもの健康と保健の意義（生命の保持と母性・父性の育成、健康とは）（課題　1　）
第 2 回　健康の概念と健康指標（課題　2　）
第 3 回　現代社会における子どもの健康に関する現状と課題（成果物）
第 4 回　地域における保健活動と子ども虐待防止（課題　3　）
第 5 回　身体発育及び運動機能の発達と保健（課題　4　）
第 6 回　生理機能の発達と保健　生理機能の発達①（呼吸器、循環器、免疫、消化器）　生理機能の発達②（尿排泄機能、水分代謝、体温調節、内分泌機能）　生理機能の発達③（睡眠、感覚、神経、精神、情緒、行動）（課題　5　）
第 7 回　健康状態把握及び心身の不調等の早期発見の重要性（課題　6　）
第 8 回　発育・発達の把握と健康診断（課題　7　）
第 9 回　保護者との情報共有（課題　8　）
第 10 回　子どもの主な疾病の特徴①先天異常（課題　9　）
第 11 回　子どもの主な疾病の特徴②循環器系・呼吸器系・血液・消化器（課題　１０　）
第 12 回　子どもの主な疾病の特徴③アレルギー・泌尿器系・内分泌代謝（課題　１１　）
第 13 回　子どもの主な疾病の特徴④脳・運動器・耳・眼・皮膚・歯の病気（課題　１２　）
第 14 回　子どもの主な疾病の特徴⑤感染症（　成果物　）
第 15 回　予防接種

＜授業時間外学修＞
授業１～１５において家庭学習（課題への取り組み：６０分、事前配布の資料の印刷や目を通すなどの準備、授業後プリントの完成と調べ作業等家庭学習へ取り組みクラスルームより提出）

＜テキスト＞
子どもの保健 谷田貝公昭監修、吉田直哉・糸井志津乃編著

＜教科書・参考資料＞
保育所保育指針解説平成２９年３月告示　厚生労働省

＜成績評価＞
学生に対する評価：①提出課題９６点（課題１～１２が各８点、ミニテスト含む）②成果物評価４点
＊授業を欠席した際には、その授業の課題は原則として評価対称とならない。提出は受け付ける。
＊課題は、毎授業で基本課される。
① ②を合計で１００点。８０点以上「優」、７０～７９点「良」、６０～６９点「可」、５９点以下「不可」とする。

＜備考＞
特になし。

子どもの理解と援助			竹内　真悟	
必修科目	演習	1単位	2年次	単独
教員養成課程の区分	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目「幼児理解の理論及び方法」			
保育士養成課程の区分	保育の対象の理解に関する科目「子どもの理解と援助」			
担当教員の実務経験	―			

＜授業概要＞
幼児が経験する「つまずき」の意味を理解するためには、集団と個の関係、背景にある家庭や地域とのつながり、発達や学びの過程への理解が欠かせない。保育現場における幼児理解の意義を理解し、心理と保育の視点から保育実践を考察し、記録し、共有する方法を身に付ける。

＜授業の到達目標＞
（1）一般目標：幼児理解についての知識を身に付け、考え方や基礎的態度を理解する。
到達目標：1）幼児理解の意義を理解している。
2）幼児理解から発達や学びを捉える原理を理解している。
3）幼児理解を深めるための教師の基礎的な態度を理解している。
（2）一般目標：幼児理解の方法を具体的に理解する。
到達目標：1）観察と記録の意義や目的・目的に応じた観察法等の基礎的な事柄を例示することができる。
2）個と集団の関係を捉える意義や方法を理解している。
3）幼児のつまずきを周りの幼児との関係やその他の背景から理解している。
4）保護者の心情と基礎的な対応の方法を理解している。

＜授業方法＞
・毎回テーマに沿った事例を提示し、グループワークを中心に意見共有や解説を行う。
・毎回授業内容に関して、考えたこと、学んだこと、実習や自分の経験から連想したこと、等を振り返りにまとめ、次回の授業で紹介することで、テーマの補足や展開を行う。
・授業の後半では、自分の経験した事例をもとに、全体で模擬ケースカンファレンスを行う。

＜授業計画＞
第1回：オリエンテーション：幼児理解の意義（1）-1）
第2回：子ども理解はなぜ大切か：気になる行動と幼児理解の方法（1）-1)、（1）-2）
第3回：幼児の愛着形成と他者の役割：安全基地と分離不安　（1）-2)、（1）-3）
第4回：幼児の認知発達と他者の役割：年齢による遊びの変化（1）-2)、（1）-3）
第5回：幼児を取り巻く世界の広がり：家族関係と援助資源（1）-3）（2）-2)、（2）-4）
第6回：幼児の「つまずき」の意味：子ども理解の様々な視点（1）-3)、（2）-3）
第7回：「つまずき」への対応1：共感的理解の視点から（1）-3)、（2）-3）
第8回：「つまずき」への対応2：客観的理解の視点から（2）-1)、（2）-2）（2）-3）
第9回：理解を深めるための振り返り1：保育場面の観察と記録（2）-1)、（2）-2）
第10回：理解を深めるための振り返り2：PDCA と仮説検証（2）-1)、（2）-2）
第11回：エピソードの捉え方（2）-3)、（2）-4）
第12回：エピソードのまとめ方　（2）-1)、（2）-2）
第13回：子ども理解を共有する1：ケースカンファレンスとは（2）-1)、（2）-2）
第14回：子ども理解を共有する2：保護者対応　（2）-3)、（2）-4）
第15回：定期試験とまとめ

＜授業時間外学修＞
事後学習（2時間）…Google Form で振り返りを提出、事前学習（2時間）…予習課題へ取り組む

＜テキスト＞
特になし。

＜参考書・参考資料＞
幼稚園教育要領(平成29年3月告示　文部科学省)
幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示　内閣府・文部科学省・厚生労働省)
保育所保育指針（平成29年3月告示　厚生労働省）

＜成績評価＞
毎回の振り返りと課題への取り組み（50%)、試験（50%）によって評価する。

＜備考＞
特になし。

子ども家庭支援の心理学			黒石　憲洋	
必修科目	講義	1単位	2年次	単独
教員養成課程の区分	－			
保育士養成課程の区分	保育の対象の理解に関する科目「子ども家庭支援の心理学」			
担当教員の実務経験	－			

＜授業概要＞
主な内容としては、①生涯発達の理論に基づいて各発達段階における発達課題と心理社会的危機について学修する。②家族・家庭の機能に関する社会学的理論に基づいてさまざまな家族・家庭の在り方について検討する。③家族・家庭の問題について因果的な理解を越えてシステム論的な視点からとらえ直しをおこなう。④子どものウェル・ビーイングに影響を与える家族・家庭を含めた社会環境要因を考察する。

＜授業の到達目標＞
1. 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。
2. 家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達的な観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。
3. 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題を理解する。
4. 子どもの精神保健とその課題について理解する。

＜授業方法＞
講義、グループ・ディスカッション、発表などを組み合わせておこなう。

＜授業計画＞
第1回：ガイダンスとイントロダクション：講義の概要、子ども家庭支援の心理学で学ぶこと
第2回：発達とは：生涯を通じた変化、各発達段階における発達課題と危機
第3回：生涯発達（1）：乳幼児期から幼児期にかけての発達
第4回：生涯発達（2）：児童期から思春期・青年期にかけての発達
第5回：生涯発達（3）：成人期から高齢期にかけての発達
第6回：道徳性の発達
第7回：対人関係の発達
第8回： 集団機能の社会学的理解
第9回： 家族・家庭の在り方を考える
第10回：システム論とは
第11回：家族・家庭のシステム論的理解
第12回：家族・家庭の発達
第13回：子どもの生活・生育環境としての家族・家庭：虐待・ネグレクト等
第14回：子どものウェル・ビーイングを考える
第15回：まとめと定期試験

＜授業時間外学修＞
事後学修として、授業ノートを整理し、内容の確認をおこなう。前回の授業内容は、次回までにしっかりと理解しておくこと。不明な点については、自主学習や受講生間の協同学習、教員への質問などにより必ず解消しておくこと。

＜テキスト＞
テキストは特に使用しない。必要に応じて講義中に資料を配付する。

＜参考資料＞
吉川悟(編)　(1999).　システム論からみた学校臨床　金剛出版

＜成績評価＞
授業内で実施する期末試験において、合格点（100点満点中、60点以上）を満たせば、単位を認定する。

＜備考＞
特になし

子ども家庭支援論			坂吉　美代	
必修科目	講義	2 単位	2 年次	単独
教員養成課程の区分	―			
保育士養成課程の区分	保育の本質・目的に関する科目「子ども家庭支援論」			
担当教員の実務経験	保育士（保育所・23 年）　園長（保育所・16 年）			

＜授業概要＞

保育の専門性を生かした支援、保育士として求められる基本的態度を知り子ども家庭支援を捉える。
支援の体制（社会資源、支援施策）多様な支援の展開と関係機関との連携等、具体的な事例を通して保育の視点を考え論じる。

＜授業の到達目標＞

・家庭環境の変化、子育てをめぐる様々な問題から、子育て家庭に対する支援の意義、目的を理解する。
・保育の専門性を生かした家庭支援、保育士に求められる基本的態度を理解して説明できる。
・支援の体制（国、自治体の施策、社会資源）について学び、保育士の担う支援の理解を深める。
・状況に応じた多様な支援の展開、支援内容によって専門機関との連携の重要性を理解する。

＜授業方法＞

講義中心であるが、地域の子育て支援について調べ レポートを作成し発表する。

＜授業計画＞

第 1 回： オリエンテーション（授業の目標、15 回の流れ、評価）　子ども家庭支援の意義と役割
第 2 回： 子ども家庭支援の必要性　子ども、家庭をめぐる環境変化と現状
第 3 回： 保育士による子ども家庭支援の意義と基本　① 保育の専門性を生かした実践の支援
第 4 回： 〃 ② 子どもの育ちを保護者と共有する具体的な支援　③ 保護者の子育てを自ら実践する支援
第 5 回： 〃 ④ 保育者に求められる基本的態度
第 6 回： 子育て家庭に対する支援の体制　①（社会資源）
第 7 回：　〃　②（子育て支援施策）
第 8 回：　地域の社会資源、子育て支援施策について　① 発表
第 9 回：　〃　② 発表
第 10 回： 家庭の状況に応じた支援　（多様な支援の展開と関係機関との連携）① 支援の内容と対象
第 11 回：　〃 ② 保護者との相互理解、信頼関係
第 12 回：　〃 ③ 状況に応じた個別支援（障害や発達上の課題がある子ども、特別な配慮を必要とする家庭）
第 13 回：　〃 ④ 要保護児童家庭に対する支援（不適切な養育家庭、虐待を疑われる場合）
第 14 回：　〃 ⑤ 地域の子育て家庭への支援　　子ども家庭支援に関する現状と課題
第 15 回： 授業の振り返りと期末試験

＜授業時間外学修＞

レポート作成（地域の社会資源や子育て支援について調べる）

＜テキスト＞

特に使用しないが、必要に応じてプリントを配布

＜参考書・参考資料＞

『最新 保育士養成講座 第 10 巻　子ども家庭支援』全国社会福祉協議会
保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示　厚生労働省）

＜成績評価＞

期末試験（50%）　レポート提出（45%）発表（5%）

＜備考＞

特になし

子ども家庭福祉			蠣﨑　尚美	
必修科目	講義	2単位	1年次	単独
教員養成課程の区分	―			
保育士養成課程の区分	保育の本質・目的に関する科目「子ども家庭福祉」			
担当教員の実務経験	乳児全戸訪問事業（厚生労働省）訪問員14年　（現任） 地域包括支援センター 社会福祉士（非常勤）3年			

＜授業概要＞

現代の子どもの育つ環境の実態について子ども家庭福祉の視点から具体的に学ぶことを通し、保育者としての子ども家庭福祉への見識を養うことを目指す。児童の権利に関する条約や子どもの権利擁護、保育者の専門性と役割について理解を深める。

＜授業の到達目標＞

1　子ども家庭福祉についての基本的理念について学ぶ。
2　子ども家庭福祉施策及びとりまく諸状況の変化について学ぶ。
3　子ども家庭福祉に関わる社会の仕組みや法律・制度について体系的に学ぶ

＜授業方法＞

本科目では、講義による解説を中心とし、関連する視聴教材も取り入れる。授業毎に所定の課題に取り組み、それに基づいた授業となる。毎回の授業ではリアクションペーパーを記入し、授業内容理解の確認を把握するので積極的に活用することを求める。グループワーク、調べ学習を行うこともある。

＜授業計画＞

第1回：子ども家庭福祉の理念と概念
第2回：子どもの権利保障
第3回：子ども家庭福祉の歴史的変遷、諸外国の動向
第4回：子ども家庭福祉の展開
第5回：児童福祉法の成立と改正
第6回：子ども家庭福祉等機関・地域活動
第7回：子ども家庭福祉サービス・養護
第8回：子ども家庭福祉サービス・障害
第9回：子ども家庭福祉行政の仕組み
第10回：母子保健と子どもの健全育成
第11回：多様な保育へのニーズ
第12回：子ども福祉サービスの実際／障害
第13回：子ども福祉サービスの実際／ひとり親
第14回：子ども福祉サービスの実際／里親
第15回：ふりかえりと試験

＜授業時間外学修＞

【事後学習】授業内容を読み返し、疑問や課題を整理する。
【次回事前学習】事前にGoogleクラスルームから提示する授業資料を読み、提示された課題に取り組む。教科書を読み、理解しておく。

＜テキスト＞

保育と子ども家庭福祉第2版　　櫻井奈津子 編 株式会社みらい

＜参考書・参考資料＞

保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）

＜成績評価＞

レポート50% 、リアクションペーパー30%、授業態度20%

＜備考＞

第1回目のオリエンテーションには必ず出席すること。

子育て支援			小林　根	
必修科目	演習	1単位	2年次	単独
教員養成課程の区分	―			
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目「子育て支援」			
担当教員の実務経験	社会福祉士3年			

＜授業概要＞

保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援（保育相談支援）について、その特性と展開を具体的に理解する。

＜授業の到達目標＞

保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解する。

＜授業方法＞

授業回数ごとに割り当てられたテーマに沿ってテキスト内の実践事例を読み解き、子育て支援に必要な基本姿勢や専門的知識・技術を学ぶ。パワーポイントを活用し、授業を進めながらワークシートを完成させ、授業後半で提出してもらう。ワークシートの内容を評価し、学習の進捗状況を確認する。

＜授業計画＞

第1回：　子育て支援とは
第2回：　子育て支援の意義
第3回：　子育て支援の基本的価値・倫理
第4回：　子育て支援の基本姿勢
第5回：　子育て支援の基本的技術
第6回：　園内・園外との連携と社会資源
第7回：　記録・評価・研修
第8回：　日常会話を活用した子育て支援
第9回：　文章を活用した子育て支援
第１０回：　行事などを活用した子育て支援
第１１回：　環境を活用した子育て支援
第１２回：　地域子育て支援拠点における支援
第１３回：　入所施設における子育て支援
第１４回：　通所施設における子育て支援
第１５回：　まとめと今後の課題（テスト）

＜授業時間外学修＞

授業後半に次回授業の予告を行い、テキストの実践事例について次回までに読んでおくよう指導する。

＜テキスト＞

子育て支援（15のストーリーで学ぶワークブック）萌文書林

＜参考書・参考資料＞

保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育保育要領

＜成績評価＞

各授業毎の演習ワークシート提出70%、テスト30%

＜備考＞

特になし。

社会的養護 A			蠣崎　尚美	
必修科目	講義	2 単位	1 年次	単独
教員養成課程の区分	―保育の本質・目的に関する科目「社会的養護Ⅰ」			
保育士養成課程の区分				
担当教員の実務経験	乳児全戸訪問事業（厚生労働省）訪問員 14 年（現任） 地域包括支援センター 社会福祉士（非常勤）3 年社会福祉士			

＜授業概要＞

本科目では、児童福祉施設に自立支援という新たな機能や役割が求められているという動向を踏まえ、現代社会における家庭や子育てを巡る現状と課題、児童養護の体系、歴史、政策、原理等、社会的養護に関する基本的事項について、理解することを目指す。

＜授業の到達目標＞

1.子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解し、説明することができる。
2．社会的養護の制度や実施体系等について理解し、説明することができる。
3．社会的養護の対象や形態、関係する専門職について理解し、説明することができる。
4・「社会的養育ビジョン」について理解し、説明することができる。

＜授業方法＞

本科目は、講義を中心に行い、社会的養護の基本的な考え方及び児童福祉施設等における保育の本質と目的等について学習する。また、子どもを支援する現場の課題について、グループワークや調べ学習を取り入れ授業を行う。

＜授業計画＞

第１回：オリエンテーション　社会的養護の理念と概念
第２回：現代社会と児童福祉、社会的養護の基本原則
第３回：権利主体としての児童（子どもの人権擁護）
第４回：社会的養護の歴史
第５回：児童養護の体系（施設、里親、グループホーム等）
第６回：社会的養護の制度と法体系
第７回：施設養護と家庭養護
第８回：施設養護の基本原理　　子どもの最善の利益
第９回：施設養護の実際　　施設の日常生活、自立支援　　ビデオ視聴
第１０回：施設養護の実際　　治療的・支援的援助　　ビデオ視聴
第１１回：社会的養護に関わる専門職（児童相談所、関係機関、家庭等）
第１２回：被措置等の虐待防止
第１３回：社会的養護における保育士等の倫理と責務
第１４回：社会的養護と地域福祉　　ビデオ視聴
第１５回：社会的養護の目指す方向

＜授業時間外学修＞

【事後学習】
授業内容についてまとめ、リアクションペーパーを提出する。
【事前学習】
教科書該当箇所を読み、考察を行う。小レポートを提出する。

＜テキスト＞

図解で学ぶ保育　社会的養護Ⅰ（第 2 版）
原田旬哉・杉山宗尚　編著　萌文書林

＜参考書・参考資料＞

保育所保育指針（平成２９年３月告示 厚生労働省）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成２９年３月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）

＜成績評価＞

レポート 50% 、リアクションペーパー30%、授業態度 20%

＜備考＞

第１回目のオリエンテーションには必ず出席すること。

社会的養護Ｂ			河野　暢明	
必修科目	演習	１単位	２年次	単独
教員養成課程の区分	―			
保育士養成課程の区分	保育の本質・目的に関する科目「社会的養護Ⅰ」			
担当教員の実務経験	障害福祉施設支援員３年　障害福祉相談員１２年　障害福祉施設管理職５年			

＜授業概要＞

本科目は、社会的養護Ａの内容を理解した上で、具体的に社会的養護を担う施設のあり方や施設養護全体について理解する。

＜授業の到達目標＞

１．施設養護及び他の社会的養護の基礎的な内容について具体的に理解する。
２．社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解し、作成を行なうことができる。
３．社会的養護に関わる相談援助の方法と技術について理解する
４．社会的養護における子ども虐待の防止と家族支援について理解する。

＜授業方法＞

講義、個人ワーク、グループワーク、ディスカッション、発表、ロールプレイ、参加型学習

＜授業計画＞

第１回：オリエンテーション、アイスブレイク、子どもの権利擁護
第２回：社会的養護における子どもの理解
第３回：社会的養護の内容①日常生活支援
第４回：社会的養護の内容②心理的支援
第５回：社会的養護の内容③自立支援
第６回：施設養護の生活特性および実際：乳児院等、障害児施設等
第７回：家庭養護の生活特性および実際
第８回：アセスメントと個別支援計画の作成
第９回：ソーシャルワーク演習（音楽を用いたソーシャルワーク）
第１０回：記録及び自己評価
第１１回：社会的養護における保育の専門性にかかわる知識・技術とその実際
第１２回：社会的養護にかかわる相談援助の知識・技術とその実際
第１３回：社会的養護におけるソーシャルワーク
第１４回：社会的養護に家庭支援
第１５回：今後の社会的養護の課題と展望、試験

＜授業時間外学習＞

【事前学習】わからない専門用語を事前に調べておく。
【事後学習】授業を通して、何が理解できたか、自分ならどう活かしていけるかをまとめる。

＜テキスト＞

新基本保育シリーズ　社会的養護Ⅱ　（中央法規）

＜参考書・参考資料＞

保育所保育指針（平成２９年３月告示　厚生労働省）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成２９年３月告示　内閣府・文部科学省・厚生労働省）
新基本保育シリーズ「社会的養護Ⅱ」監修　公益財団法人児童育成協会　2022 年　中央法規

＜成績評価＞

小テスト（４０％）、期末試験（６０％）

＜備考＞

演習科目ですので積極的に取り組んでください。

社会福祉			亀田　良克	
必修科目	講義	2単位	1年次	単独
教員養成課程の区分	―			
保育士養成課程の区分	保育の本質・目的に関する科目「社会福祉」			
担当教員の実務経験	－			

＜授業概要＞

社会福祉の意義、理念、歴史、制度、体系等の社会福祉の基礎を学ぶ。また、子ども家庭支援の視点を身につけるとともに、相談援助の理論や方法等の学習を通して福祉サービス利用者を適切かつ円滑に支援する態度や行動の基礎を培う。さらに、学んだ知識や技術を土台に、さまざまな社会福祉が抱える問題や課題について探求する。

＜授業の到達目標＞

・現代社会における社会福祉の意義、歴史ならびに子ども家庭支援の視点について理解する。
・社会福祉制度及びその実施体系について理解する。
・社会福祉における相談援助について理解する。
・社会福祉における利用者保護に関わる仕組みについて理解する。
・社会福祉の動向と今後の課題について考究できる姿勢を構築する。

＜授業方法＞

講義を中心に進めていきますが、グループディスカッション、前後左右の受講者同志による討議も実施し、幅広い視点や知識の獲得も目指していきます。

＜授業計画＞

第1回　社会福祉の理念と歴史的変遷
第2回　子ども家庭支援と社会福祉
第3回　社会福祉の制度と法体系
第4回　社会福祉行財政と実施機関・社会福祉施設等
第5回　社会福祉の専門職
第6回　社会保障および関連制度の概要
第7回　相談援助の理論、相談援助の意義と機能
第8回　相談援助の対象と過程
第9回　相談援助の方法と技術
第10回　社会福祉における利用者保護の仕組み
第11回　少子高齢化社会における子育て支援
第12回　共生社会の実現と障害者施策
第13回　在宅福祉・地域福祉の推進
第14回　諸外国の社会福祉の動向
第15回　まとめと試験

＜授業時間外学修＞

毎授業終了時に次回の講義内容をお伝えしますので、テキストの該当箇所を事前に読むなどして次回の授業に臨んで下さい。授業後には、定期試験に向けてポイントをまとめておきましょう。

＜テキスト＞

「社会福祉 新・基本保育シリーズ④」監修 公益社団法人 児童育成協会、 松原康雄・朴洋一・金子充編、中央法規出版、2019

＜参考書・参考資料＞

保育所保育指針（平成29年3月告示　厚生労働省）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示　内閣府・文部科学省・厚生労働省）

＜成績評価＞

定期試験（８０%）及び課題(含リフレクションシート)（２０%）で評価し、60%以上で単位を認定する。

＜備考＞

特になし。

情報機器の操作 A			脇 みどり	
必修科目	演習	1 単位	2 年次	単独
教員養成課程の区分	「情報機器の操作」			
保育士養成課程の区分	学校独自の科目			
担当教員の実務経験	－			

＜授業概要＞

保育士、幼稚園教諭業務に必要な基本的PCスキルを身につけます。園だよりなど想定される業務内容に応じた課題の作成を通して、文書作成（Word)、数値処理（Excel)、プレゼンテーション（PowerPoint）の基本スキルを習得します。加えて、現代社会に拡がる多数の情報から、必要とする情報を的確に収集・判断・評価・発信する能力「情報リテラシー」の基本を学習します

＜授業の到達目標＞

ステップ 1 （Word)：文章作成、編集に関する基本スキルの習得
ステップ 2 （Power Point)：ポスター作成やプレゼン資料に関する基本スキルの習得
ステップ 3 （Excel)：データ記録、分析に関する基本スキルの習得
ステップ 4 （情報リテラシー)：ICT 利活用と情報の見極めに関する知見の理解・把握

＜授業方法＞

テーマに沿った課題を PC の操作をしながら学習し成果物として提出します。

＜授業計画＞

第 1 回　オリエンテーション
第 2 回　PC 基本操作　Office ソフト説明　現代社会と情報
【Word】
第 3 回　基本機能の確認と操作
第 4 回　体裁・レイアウト
第 5 回　図表の挿入と編集①　図形の組み合わせ、配置、編集
第 6 回　図表の挿入と編集②　表の作成、配置、編集
第 7 回　さまざまな機能の活用（グリッド線、ぶら下げ、ヘッダーとフッター、段組みなど）
第 8 回　課題演習Ⅰ：「園だより」の作成
【Power Point】
第 9 回　基本機能の確認と操作
第 10 回　レイアウト、配色、オブジェクトの編集
第 11 回　図表の作成と画像の取り込み・挿入
第 12 回　情報の配置と印刷
第 13 回　「園のお祭り」ポスター作成
第 14 回　課題演習Ⅱ：「遠足のしおり」の作成
第 15 回　まとめ

＜授業時間外学修＞

配布資料をよく読み内容の理解に努めてください。課題は仕様をよく確認して作業してください。

＜テキスト＞

教科書はありません。教員が資料と課題をデータで配布します。
（受講者は各自 USB メモリなどのデータ保存用デバイスの準備を推奨します。メーカー等自由、容量は 8GB 程度で十分です。初回は不要です。説明を聞いてから準備してください。）

＜参考書・参考資料＞

阿部正平ほか（2018)『保育者のためのパソコン講座』萌文書林
実教出版企画開発部（2022)『30時間でマスター　Office2021』実教出版
その他の参考書は，必要に応じて随時紹介します。

＜成績評価＞

最終成果物（課題演習）の評価　60%
授業への参加度 40%（授業内の小課題やアンケート提出）

＜備考＞

特になし。

情報機器の操作 B			脇 みどり	
必修科目	演習	1 単位	2 年次	単独
教員養成課程の区分	「情報機器の操作」			
保育士養成課程の区分	学校独自の科目			
担当教員の実務経験	－			

＜授業概要＞

保育士、幼稚園教諭業務に必要な基本的PCスキルを身につけます。園だよりなど想定される業務内容に応じた課題の作成を通して、文書作成（Word)、数値処理（Excel)、プレゼンテーション（PowerPoint）の基本スキルを習得します。加えて、現代社会に拡がる多数の情報から、必要とする情報を的確に収集・判断・評価・発信する能力「情報リテラシー」の基本を学習します

＜授業の到達目標＞

ステップ 1 （Word)：文章作成、編集に関する基本スキルの習得
ステップ 2 （Power Point)：ポスター作成やプレゼン資料に関する基本スキルの習得
ステップ 3 （Excel)：データ記録、分析に関する基本スキルの習得
ステップ 4 （情報リテラシー)：ICT 利活用と情報の見極めに関する知見の理解・把握

＜授業方法＞

テーマに沿った課題を PC の操作をしながら学習し成果物として提出します。

＜授業計画＞

【Power Point】
第 1 回　アニメーションとエフェクト
第 2 回　 動画作成と素材の利用に関する注意点
第 3 回　 課題演習Ⅲ「園での生活紹介（プレゼン資料)」の作成
【Excel】
第 4 回　 基本機能の確認と操作
第 5 回　 基本関数の操作（SUM、AVERAGE など）
第 6 回　 グラフの作成（集合縦棒から散布図まで）
第 7 回　 Excel データの Word / Power Point 利用
第 8 回　 データ分析・読解の基礎（代表値の性質、ばらつき、分布など）
第 9 回　 課題演習Ⅳ：「園児名簿」の作成
【情報リテラシー)】
第 10 回　ICT の利活用と課題①　ウェブアプリ
第 11 回　ICT の利活用と課題②　情報倫理とセキュリティ
第 12 回　情報リテラシー①　認知バイアスと情報
第 13 回　情報リテラシー②　情報を吟味し見極める（クリティカルシンキング）
第 14 回　課題演習Ⅴ：最終課題の作成
第 15 回　まとめ

＜授業時間外学修＞

配布資料をよく読み内容の理解に努めてください。課題は仕様をよく確認して作業してください。

＜テキスト＞

教科書はありません。教員が資料と課題をデータで配布します。
（受講者は各自 USB メモリなどのデータ保存用デバイスの準備を推奨します。メーカー等自由、容量は 8GB 程度で十分です。初回は不要です。説明を聞いてから準備してください。）

＜参考書・参考資料＞

阿部正平ほか（2018)『保育者のためのパソコン講座』萌文書林
実教出版企画開発部（2022)『30時間でマスター　Office2021』実教出版
その他の参考書は，必要に応じて随時紹介します。

＜成績評価＞

最終成果物（課題演習）の評価　60%
授業への参加度 40%（授業内の小課題やアンケート提出）

＜備考＞

特になし。

人間関係			門倉　洋輔	
必修科目	演習	1単位	1 年次	単独
教員養成課程の区分	領域及び保育内容の指導方法に関する科目「保育内容の指導方法(情報機器及び教材の活用を含む)」			
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目「保育内容演習」			
担当教員の実務経験	学童保育指導員（学童保育・6年）			

＜授業概要＞

領域「人間関係」を理解するための基礎知識を身につけることを重視し、社会学、発達心理学、哲学、生態学などの理論をベースに授業を展開する。

また、実際のエピソードや保育記録、連絡ノート、ソシオグラム、エクササイズを用いて考察を行う。

＜授業の到達目標＞

・乳幼児期の特性を踏まえ、領域「人間関係」の意義、ねらい、内容を理解する。

・保育者の援助について、実践事例を通して理解する。

・子どもの人間関係に関する知識、指導技術を獲得し、幼児教育・保育の場で応用することができる。

＜授業方法＞

講義を主軸として、グループディスカッションや動画視聴などを交えながら授業を行う。

＜授業計画＞

第1回　イントロダクション

第2回　自己理解と自己概念

第3回　社会・文化に生きる子ども

第4回　領域「人間関係」がめざすもの

第5回　領域「人間関係」の基礎知識

第6回　0・1・2歳児 ～保育所における人とのかかわり～

第7回　3歳児 ～保育所が居場所～

第8回　4歳児 ～自己主張と自己抑制～

第9回　5歳児 ～園生活の充実感を支えるもの～

第10回　かけがえのない一人ひとりの存在

第11回　保護者とのかかわり

第12回　保育者同士のかかわり

第13回　かかわりの育ちを「みる」

第14回　親しい人との体験が生きる原動力になる

第15回　総括

＜授業時間外学修＞

学習内容を復習し、自分の考えをまとめる。

＜テキスト＞

『体験する・調べる・考える 領域 人間関係』田宮　緑（著） 萌文書林 2018年〈第2版〉

＜参考書・参考資料＞

特になし

＜成績評価＞レポート 60%、テスト 40%

＜備考＞

特になし

体育講義			小貫　凌介	
必修科目	講義	1単位	1年次	単独
教員養成課程の区分	「体育」			
保育士養成課程の区分	教養科目「体育」			
担当教員の実務経験	―			

＜授業概要＞

① 体力の変化と生涯スポーツの必要性について学習する。年を重ねることによって変化する体力について学び、健康的な生活を送る上で必要なスポーツとの関わりについて学習する。

② 幼児教育における体育・スポーツ、幼児期の発育発達に即した体育やスポーツの在り方について、その論理的根拠を学習する。

③ 運動の合理的・計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにする。

＜授業の到達目標＞

① 健康な生活を送る上でスポーツを実践することは、とても効果的である。では、それが何故、必要であるのか、どの様に、実践すれば良いのかについて生理学的、心理学的および社会学的観点から学び、理解をする。

② 幼児期における骨格形態の変化およびそれに伴う機能の変化から、それに応じた運動、スポーツについて学ぶ。特に幼児期運動指針ガイドブックを参照し、幼児期の運動の在り方について包括的に理解をする。

＜授業方法＞

教員は講義形式で実施し，学生はノートテイクを行う。また、学生が講義内容に関する質問や疑問を持つ場合、随時、教員と学生の間でディスカッションを行う。

＜授業計画＞

第1回　ガイダンス、授業の趣旨、概要、評価について
第2回　身体活動について
第3回　体力について①（体力の分類、加齢と体力の関係）
第4回　体力について②（体力の性差、月経）
第5回　体力トレーニングの基礎①（基本原則）
第6回　体力トレーニングの基礎②（健康増進）
第7回　体力トレーニングの基礎③（疲労回復）
第8回　体力トレーニングの基礎④（栄養摂取）
第9回　スポーツと心の関り（メンタルトレーニング）
第10回　体育とスポーツ（体育とスポーツの違い、スポーツの概念）
第11回　スポーツの特徴①（様々なスポーツの特徴）
第12回　スポーツの特徴②（球技スポーツを経験する）
第13回　スポーツの特徴③（スポーツと障害について）
第14回　新体力テスト（体力測定の意義について）
第15回　振り返り・まとめ

＜授業時間外学修＞

次回の授業内容に基づき調べ学習(資料やテキストを読む)を行う。

＜テキスト＞

特になし

＜参考書・参考資料＞

特になし

＜成績評価＞

期末テスト(100%)

＜備考＞

特になし

体 育 実 技			小川 佳代子	
必修科目	実技	1 単位	1 年次	単独
教員養成課程の区分	体育			
保育士養成課程の区分	教養科目「体育」			
担当教員の実務経験	大学などでの体育実技授業（20 年） 健康運動指導士（病院：11 年 企業や自治体：20 年） 子どもたちへの運動指導（目黒学校健康トレーナー及び支援員：14 年）			

＜授業概要＞
仲間とコミュニケーションを図りながらスポーツを楽しむことで、心身の調子を整える。また、スポーツを生涯楽しむことができるよう基礎技術・ルール・安全に行うための方法などを学ぶ。

＜授業の到達目標＞
以下の知識・能力を習得することを目標とする。
①仲間とコミュニケーションを図り、共感力を高め、スポーツを楽しむことができる。
②さまざまなスポーツの基礎技術・ルール・審判方法を身につけ、仲間とゲームができる。
③スポーツを安全に行うための方法がわかる。

＜授業方法＞
対面での実技（アリーナ）

＜授業計画＞
第 1 回 ガイダンス
：授業内容の説明や注意事項、評価方法について説明する。また、この授業で特に学びたい内容や要望などを確認する。
第 2 回 レクリエーションスポーツ①
：レクリエーションゲームで身体を動かし、仲間とコミュニケーションを図る。また、運動時における水分補給の方法を学ぶ。
第 3 回 レクリエーションスポーツ②
：ボールを使ったレクリエーションゲームを楽しむ。また、簡単な身体機能チェックで自身の身体状況を認識し、改善策を考える。
第 4 回 レクリエーションスポーツ③
：いろいろな用具を使ったレクリエーションゲームを楽しむ。また、スポーツを安全に行うためのウォーミングアップやクーリングダウンの方法を学ぶ。
第 5 回 プレルボール：ルールを学びゲームを楽しみながら、ボールをつなぐ技術を養う。
第 6 回 バレーボール①：サーブ・オーバーハンドなどの基礎技術を習得し、簡易ゲームを楽しむ。
第 7 回 バレーボール②：ルール・審判方法を学び、皆でゲームを楽しむ。
第 8 回 バレーボール③：仲間と戦術を考えながら、ゲームを楽しむ。
第 9 回 Cボール：ルールを学びゲームを楽しみながら、ボールをキャッチする感覚を養う。
第 10 回 ポートボール：ルールを学びゲームを楽しみながら、パス感覚を養う。
第 11 回 バスケットボール①：ドリブル、シュートなどの基礎技術を習得し、簡易ゲームを楽しむ。
第 12 回 バスケットボール②：ルール・審判方法を学び、皆でゲームを楽しむ。
第 13 回 バスケットボール③：仲間と戦術を考えながら、ゲームを楽しむ。
第 14 回 ドッチボール：さまざまなルールのドッチボールを学び、皆で楽しむ。
第 15 回 リクエストスポーツ
：授業で行ったスポーツのなかで、履修者のリクエストが多いものを行う。

＜授業時間外学修＞
予習（取組時間の目安：5～15 分/コマ）
・授業で行うスポーツについて、情報を収集する。
復習（取組時間の目安：5～15 分/日）
・授業内で紹介するエクササイズや生活習慣等の改善を日々実践し、身体機能の向上を目指す。

＜テキスト＞
必要に応じて、授業内で提示・配布する。

＜参考書・参考資料＞
必要に応じて、授業内で提示・配布する。

＜成績評価＞
受講態度及び積極性 60%、授業外で取り組み 30%、課題 10%
【受講態度及び積極性】
・授業に臨む姿勢：遅刻、早退、服装、靴、忘れ物など。
・授業時の様子：得て不得手に関係なく積極的に運動に取り組む様子や仲間とコミュニケーションを図りながら活動を楽しもうとする姿勢。
【授業外での取り組み】
・良好な生活行動の実践で体調を整え、授業に参加することができたか。
【課題】
・授業内に課すアンケートやワークシートの提出とその内容。
※フィードバックは、授業内での講評や個別に回答を行う。

＜備考＞
・自身の健康状態や体調を確認して参加すること。
・スポーツウエア、室内用運動靴を着用すること。
　：スポーツウエアに関しては、体温調整がしやすいよう脱ぎ着がしやすいものを着用すること
　（フードが付いたトレーナーは安全面を考慮して NG)。
　：靴忘れは見学
・怪我の原因となるようなアクセサリー類（時計・ネックレス・ピアス・長い爪・ネイルチップ）や身体を締めつけるストッキングなどの着用は禁止する。
・水分補給用のドリンク、タオルは適時準備すること。
・遅刻してきた際は、必ず指示を得てから授業に参加すること（ウォーミングアップ不足などで怪我をする恐れあり)。
・授業中にアリーナを出入りする場合は、必ず許可を得ること（安全管理のため)。

特別支援教育 A			岩羽　紗由実	
必修科目	演習	1 単位	1 年次	単独
教員養成課程の区分	教育の基礎的理解に関する科目（特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解）			
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目「障害児保育」			
担当教員の実務経験	小学校教諭（小学校・11 年）			

＜授業概要＞　A では基礎基本的、B では応用的な内容を取り扱う。
本授業では、特別支援教育の教育・保育の理論・制度を理解し、教育・保育の展開に必要なアセスメント方法、支援計画の作成方法、教育・保育現場での実践的な支援方法を学ぶ。
特別支援教育・保育の歴史、インクルーシブ教育・保育の理念と意義、家庭や関連機関との連携を学ぶ。
個別の特性や心身の発達に応じた援助や配慮につなげるために、障害や発達特性、日常生活での配慮や環境設定の仕方、個別支援計画の作成、複合的なニーズへの対応等を学ぶ。

＜授業の到達目標＞
○障害児保育、特別支援教育を支える理念や歴史的変遷について学び、障害児及びその保育について、個々の特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について、理解する。
○障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育における計画の作成や援助の具体的な方法について、家庭への支援や関係機関とその連携・協働について、保育に関する現状と課題について、理解する。
○特別な教育・保育的配慮を必要とする子どもの障害の特性及び、心身の発達、また、それらの子どもに対する支援の方法を理解する。
○多言語環境や貧困等、障害はないが特別の教育・保育的ニーズのある子どもの生活上の困難さ、対応の仕方、また、それらの子どもの特性及び心身の発達を理解する。

＜授業方法＞
（1）レビューライト（前回の復習）
（2）講義（一例）ICT を活用し、動画を視聴する。(視覚的アプローチ)
　　動画から学んだ事を自分なりにリフレクションシートにまとめる。
　　そして、全体討議もしくはグループワークで、
　　自分が保育者としてどう考えるべきか、どう対応すべきなのか、ということを話し合う。
　　最後に、人の意見を聞きどう考えたかなど含めて、リフレクションシートにまとめる。
（3）サマリーライト（本時の復習）

＜授業計画＞
第１回　　オリエンテーション／障害の概念と障害児の教育・保育の歴史的変遷
第２回　　障害児保育の基本／障害のある子どもの地域・社会への参加
第３回　　インクルーシブ保育・教育システムについて
第４回　　障害の理解と支援（知的障害）
第５回　　障害の理解と支援（肢体不自由）
第６回　　障害の理解と支援（視覚障害）
第７回　　障害の理解と支援（聴覚障害 :言語障害）
第８回　　障害の理解と支援（重症心身障害児）
第９回　　障害の理解と支援（病弱児　医療的ケア児）
第１０回 障害の理解と支援（発達障害（学習障害 LD　注意欠陥多動性障害 ADHD)）
第１１回 障害の理解と支援（発達障害（自閉症スペクトラム障害 ASD)）
第１２回 障害の受容について
第１３回 保護者や家族に対する理解と支援
第１４回 関係機関の連携　特別支援教育コーディネーターと機関（幼稚園　保育園　小学校　特別支援学校　発達支援センター　医療・保健など）連携しながらの支援体制の構築
第１５回： まとめ　確認試験

＜授業時間外学修＞
学んだ障害の中から、自分の興味・関心のある障害について、調べまとめる。(調べ学習)
そして、その子どもに対してどのような支援が必要なのか考え、サポート方法をまとめ発表する。（発表・プレゼンテーション）
（例:聴覚障害について調べ、その子どもと円滑にコミュニケーション取るために手話をいくつか学び、紹介する。子どもと歌える手話の歌を歌う。　等）

＜テキスト＞
特別支援教育・保育概論―特別な配慮を要する子どもの理解と支援
尾野明美ら編著　萌文書林 2021　改訂新版第 3 刷

＜参考書・参考資料＞
アクティブラーニング対応　エピソードから読み解く障害児保育
尾野明美ら編著　萌文書林 2020　第 3 版第 1 刷

＜成績評価＞
授業態度と参加の積極性(30%) / 各授業回レポート＜リフレクションシート＞(40%) / 試験(30%)

＜備考＞　特になし

特別支援教育 B			岩羽　紗由実	
必修科目	演習	1 単位	1 年次	単独
教員養成課程の区分	教育の基礎的理解に関する科目（特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解）			
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目「障害児保育」			
担当教員の実務経験	小学校教諭（小学校・11 年）			

＜授業概要＞A では基礎基本的、B では応用的な内容を取り扱う。
本授業では、特別支援教育の教育・保育の理論・制度を理解し、教育・保育の展開に必要なアセスメント方法、支援計画の作成方法、教育・保育現場での実践的な支援方法を学ぶ。
特別支援教育・保育の歴史、インクルーシブ教育・保育の理念と意義、家庭や関連機関との連携を学ぶ。個別の特性や心身の発達に応じた援助や配慮につなげるために、障害や発達特性、日常生活での配慮や環境設定の仕方、個別支援計画の作成、複合的なニーズへの対応等を学ぶ。

＜授業の到達目標＞
○障害児保育、特別支援教育を支える理念や歴史的変遷について学び、障害児及びその保育について、個々の特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について、理解する。
○障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育における計画の作成や援助の具体的な方法について、家庭への支援や関係機関とその連携・協働について、保育に関する現状と課題について、理解する。
○特別な教育・保育的配慮を必要とする子どもの障害の特性及び、心身の発達、また、それらの子どもに対する支援の方法を理解する。
○多言語環境や貧困等、障害はないが特別の教育・保育的ニーズのある子どもの生活上の困難さ、対応の仕方、また、それらの子どもの特性及び心身の発達を理解する。

＜授業方法＞
（1）レビューライト（前回の復習）
（2）講義（一例）ICT を活用し、動画を視聴する。(視覚的アプローチ)
　　動画から学んだ事を自分なりにリフレクションシートにまとめる。
　　そして、全体討議もしくはグループワークで、
　　自分が保育者としてどう考えるべきか、どう対応すべきなのか、ということを話し合う。
　　最後に、人の意見を聞きどう考えたかなど含めて、リフレクションシートにまとめる。
（3）サマリーライト（本時の復習）

＜授業計画＞
第１回：支援の方法の基本　教育課程(通級、訪問、自立活動)
第２回：支援の方法とケーススタディ（発達障害）
第３回：支援の方法とケーススタディ（知的障害）
第４回：支援の方法とケーススタディ（肢体不自由）
第５回：支援の方法とケーススタディ（病弱児　医療的ケア児）
第６回：支援の方法とケーススタディ（視覚障害）
第７回：支援の方法とケーススタディ（聴覚障害と言語障害）
第８回：支援の方法とケーススタディ(重症心身障害児)
第９回：支援の実際（障害児のアセスメント）
第１０回：支援の実際（支援体制づくり）
第１１回：支援の実際（ムーブメント教育・療法）
第１２回：幼稚園　保育園　認定こども園での実際　（環境　人間関係　健康安全）
第１３回：その他の教育的ニーズをもつこどもの理解と支援　外国につながる子ども・貧困等
第１４回：障害のある子どもの保育に関わる現状と課題
第１５回：　まとめ　確認試験

＜授業時間外学修＞
学んだ障害中から、自分の興味・関心のある障害について、調べまとめる。(調べ学習)
そして、その子どもに対してどのような支援が必要なのか考え、サポート方法をまとめ発表する。（発表・プレゼンテーション）
（例：聴覚障害について調べ、その子どもと円滑にコミュニケーション取るために手話をいくつか学び、紹介する。子どもと歌える手話の歌を歌う。　等）

＜テキスト＞
特別支援教育・保育概論―特別な配慮を要する子どもの理解と支援
尾野明美ら編著　萌文書林 2021　改訂新版第 3 刷

＜参考書・参考資料＞
アクティブラーニング対応　エピソードから読み解く障害児保育
尾野明美ら編著　萌文書林 2020　第 3 版第 1 刷

＜成績評価＞
授業態度と参加の積極性(30%) / 各授業回レポート＜リフレクションシート＞(40%) / 試験(30%)

＜備考＞
特になし

日本国憲法			宮田　史彦	
必修科目	講義	2単位	1年次	単独
教員養成課程の区分	日本国憲法			
保育士養成課程の区分	教養科目「外国語、体育以外の科目」			
担当教員の実務経験	―			

＜授業概要＞

日本国憲法の成立とその理念について概説し，基本的人権の特性や問題点について，条文の解釈に触れながら社会生活で生じている事象や判例を通じて検証する。また，人権保障のための統治機構の機能や平和主義を基調とする安全保障について考察する。

＜授業の到達目標＞

日本国憲法を学ぶことで人権感覚を養い，他への思いやりと奉仕の精神をもって保育・幼児教育の実践にあたるとともに，社会におけるさまざまな事象に対して自分の考えをもち，他と協力して生きていく力を身につける。

＜授業方法＞

講義

＜授業計画＞

第1回　憲法と立憲主義：法体系と憲法の位置づけ，立憲主義の意義について
第2回　日本国憲法の成立過程と基本原理：大日本帝国憲法（明治憲法）と日本国憲法
第3回　基本的人権の原理：人権の主体と人権の諸形式
第4回　幸福追求権と自己決定権：憲法第13条と新しい人権
第5回　法の下の平等：憲法第14条をめぐる判例からみる課題
第6回　自由権Ⅰ：思想・良心の自由，信教の自由
第7回　自由権Ⅱ：自由に学び，表現する権利
第8回　自由権Ⅲ：経済活動の自由
第9回　社会権Ⅰ：生存権をめぐる問題
第10回　社会権Ⅱ：教育を受ける権利，労働者の権利
第11回　統治機構Ⅰ：国を治める仕組み（国会と選挙制度）
第12回　統治機構Ⅱ：国を治める仕組み（内閣と地方自治）
第13回　統治機構Ⅲ：国を治める仕組み（裁判所の役割と裁判員制度）
第14回　平和主義と国を守ること：安全保障とは何か
第15回　講義の振り返り，試験とまとめ

＜授業時間外学修＞

講義後のまとめと各回の課題についてレポート作成（調べ学修）し期限まで提出

＜テキスト＞

・橋本勇人　編『保育と日本国憲法』（みらい社）ISBN978-4-86015-460-8

＜参考書・参考資料＞

・幼稚園教育要領（平成２９年３月告示　文部科学省）
・幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成２９年３月告示　内閣府・文部科学省・厚生労働省）
・保育所保育指針（平成２９年３月告示　厚生労働省）

＜成績評価＞

・期末試験：70%
・各授業で提示する課題レポート：30%

＜備考＞

特になし

乳児保育 A			井上　めぐみ	
必修科目	講義	2 単位	1 年次	単独
教員養成課程の区分	―			
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目「乳児保育Ⅰ」			
担当教員の実務経験	保育士（保育所 8 年）　幼稚園教諭（幼稚園 2 年）			

＜授業概要＞

この授業は次の 3 つから構成される。①現代までの乳児保育における社会的ニーズや、その意義等の理解。②乳児期の子どもの発達と成長とそれをふまえた保育者の援助について」の学び。③保育の記録や共に子どもの育ちを支える大人同士の連携についての学び。講義を通して、乳児保育の基本を理解していくことが目的である。

＜授業の到達目標＞

① 現代社会における子育て環境の現状と課題を知り、その上で乳児保育の意義・目的と役割について理解する

② 3 歳未満児の発達と成長、特性をふまえた保育について理解する

＜授業方法＞

講義形態を中心とする

＜授業計画＞

第 1 回　オリエンテーション
第 2 回　乳児保育の必要性　－社会的背景から考える
第 3 回　乳児保育の歴史と現状
第 4 回　保育所保育指針における乳児保育の内容
第 5 回　保育所保育指針における乳児保育のポイント
第 6 回　乳児の発達と特性①アタッチメント
第 7 回　〃　②身体的発達・ことばの発達
第 8 回　〃　③敏感期
第 9 回　0 歳児の育ち（DVD 視聴）
第 10 回　1 歳児の育ち（〃）
第 11 回　2 歳児の育ち（〃）
第 12 回　デイリープログラムと記録・評価
第 13 回　乳児保育における連携と協働
第 14 回　まとめ
第 15 回　期末試験

＜授業時間外学修＞

授業前のテキストの該当部分を読んでおくこと。
レジュメの振り返りをすること

＜テキスト＞

『はじめて学ぶ乳児保育』志村聡子編　同文書院

＜参考書・参考資料＞

『保育所保育指針解説』厚生労働省
資料は適宜配布する

＜成績評価＞

期末試験８０％　提出物２０％

＜備考＞

特になし。

乳児保育 B			井上　めぐみ	
必修科目	講義	1 単位	1 年次	単独
教員養成課程の区分	―			
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目「乳児保育Ⅱ」			
担当教員の実務経験	保育士（保育所 8 年）　幼稚園教諭（幼稚園 2 年）			

＜授業概要＞

この授業では乳児保育 A で学んだ知識を基に、乳児に対する保育の方法を、演習と講義・ディスカッションなどを通して具体的に学んでいく。

＜授業の到達目標＞

① 乳児の発育・発達のプロセスと特性をふまえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する
② 乳児の生活や遊び、保育の方法と環境について理解する

＜授業方法＞

授業計画の前半は演習と講義を中心に行い、後半はグループディスカッションなどを通して、学生同士の意見交換を行っていく。

＜授業計画＞

第 1 回　オリエンテーション
第 2 回　抱っことおんぶ
第 3 回　おむつ交換とおむつはずれ
第 4 回　清潔　（沐浴・衣服の着脱）
第 5 回　乳児保育における安全管理と衛生管理
第 6 回　調乳・授乳・洗浄
第 7 回　離乳食についての基礎知識
第 8 回　遊びと環境
第 9 回　手作りおもちゃ制作と発表
第 10 回　乳児保育における計画の実際
第 11 回　子ども同士の関わりとその援助の実際（グループディスカッション）
第 12 回　保護者との連携（ペアワーク）
第 13 回　まとめ
第 14 回　事例検討（グループディスカッション）
第 15 回　期末試験と振り返り

＜授業時間外学修＞

レジュメの振り返りをすること

＜テキスト＞

『はじめて学ぶ乳児保育』志村聡子編　同文書院

＜参考書・参考資料＞

『保育所保育指針解説』厚生労働省　　資料は適宜配布する

＜成績評価＞

期末試験８０％　提出物２０％

＜備考＞

特になし。

発達心理学			竹内　真悟	
必修科目	講義	２単位	１年次	単独
教員養成課程の区分	教育の基礎的理解に関する科目「幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程」			
保育士養成課程の区分	保育の対象の理解に関する科目「保育の心理学」			
担当教員の実務経験	―			

＜授業概要＞
子ども理解において、基礎となる「発達の視点」は必要不可欠である。
本授業では、保育者が発達の視点から子どもの育ちや内面を理解するために必要な視点や基礎的な知識を、発達心理学の代表的な理論や研究に基づき解説していく。
授業を通して、人が生まれ、成長発達していくことの不思議や驚きに開かれていくことを期待する。

＜授業の到達目標＞
１）幼児、児童及び生徒の心身の発達に対する外的及び内的要因の相互作用、発達に関する代表的理論を踏まえ、発達の概念及び教育における発達理解の意義を理解している。
２）乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達について、その具体的な内容を理解している。

＜授業方法＞
・毎回の振り返りを次回の授業の冒頭で共有し、補足や復習を行う。
・講義を中心に、適宜事例や映像資料を用いる。

＜授業計画＞
第１回　オリエンテーション
第２回　そもそも人はなぜ発達するのか
第３回　胎児の発生と遺伝の影響
第５回　乳幼児にとっての環境
第６回　初期経験と脳の発達
第７回　知覚と運動機能の発達
第８回　言葉の発達
第９回　思考の発達
第10回　記憶の発達
第11回　感情の発達
第12回　対人関係の発達
第13回　コミュニケーションの発達
第14回　自己の発達
第15回　まとめと試験

＜授業時間外学修＞
事後学習（2時間）…毎回の授業の振り返りや質問をまとめ、Google Formで提出する。
事前学習（2時間）…教科書の該当箇所を予習する。

＜テキスト＞
新 乳幼児発達心理学〔第２版〕　子どもがわかる　好きになる
石井正子・向田久美子編著　福村出版

＜参考書・参考資料＞
幼稚園教育要領(平成２９年３月告示　文部科学省)
幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成２９年３月告示　内閣府・文部科学省・厚生労働省)
保育所保育指針（平成２９年３月告示　厚生労働省）

＜成績評価＞
毎回の振り返りと課題への取り組み（15%）、試験（85%）によって評価する。

＜備考＞
特になし。

発展造形			羽田　顕佑	
選択科目	講義	2単位	2年次	単独
教員養成課程の区分	―			
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目「発展造形」			
担当教員の実務経験	―			

＜授業概要＞
主に技法的特質に着目した造形活動の体験において、素材へのアプローチ方法や用具の取り扱い方の多様さを実感すると共に、各活動の表現的な可能性を探求する。

＜授業の到達目標＞
1．造形行為における素材の多様性と、技法毎にみられる造形要素と表現的特質を理解している。
2．活動内容に応じた見通しの立て方や、適した環境設定の方法について考えることができる。

＜授業方法＞
講義と実技演習を複合的に行う。実技演習では個人および集団による制作や遊びを取り扱う。

＜授業計画＞
第1回　【講義】ガイダンス　授業の趣旨、概要、求める姿勢、評価について
第2回　【講義】張り子制作①導入、構想～芯組み
第3回　【演習】張り子制作②張込み
第4回　【演習】張り子制作③仕上げ、彩色
第5回　【講義】コラグラフ①導入、構想～版作り
第6回　【演習】コラグラフ②刷り作業
第7回　【講義】中間まとめ、成果物鑑賞会
第8回　【演習】モビール①導入、装飾パーツの構想、制作
第9回　【演習】モビール②組み上げ、仕上げ
第10回　【演習】型取り彫刻①雌型作り（形の探索）
第11回　【演習】型取り彫刻②石膏流し込み
第12回　【演習】型取り彫刻③仕上げ
第13回　【演習】素材の複合的表現①木材で骨組み作り
第14回　【演習】素材の複合的表現②雑材を用いた装飾
第15回　【講義】まとめ

＜授業時間外学修＞
事後学修として、毎時の活動成果・進捗状況をスケッチブックにまとめること。また、各自記録する授業ノートおよび配布資料を照応・整理する機会を設けること。
事前学修として、資料の参照を指示する場合がある。

＜テキスト＞
指定しない。必要に応じてプリント資料を配布する。

＜参考書・参考資料＞
平田智久(監)，小野和，宮野周(編著)『〈感じること〉からはじまる子どもの造形表現』，教育情報出版
佐善圭(編著)，『造形のじかん』，愛智出版，2013
『幼稚園教育要領』平成２９年3月告示，文部科学省
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』平成２９年3月告示，内閣府・文部科学省・厚生労働省
『保育所保育指針』平成２９年3月告示，厚生労働省

＜成績評価＞
1．成果物・記録(70%)　3．最終課題(30%)

＜備考＞
全ての演習への参加・所定の課題提出が、学修を完遂するための必要条件です。
実技演習を行うにあたり、教員が示す活動に適した身支度と準備を整えること。

表現			竹内　あゆみ	
必修科目	演習	1単位	1年次	単独
教員養成課程の区分	領域及び保育内容の指導法に関する科目「保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）」			
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目「保育内容演習」			
担当教員の実務経験	幼稚園教員（幼稚園・3年）			

＜授業概要＞
この授業では、領域「表現」のねらいと内容を理解し、子どもが「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。」ための指導について学ぶ。また、受講生自身がグループワークや演習を通して表現することの楽しさを感じるとともに、子どもが安心して表現できる力を育むために必要な保育者の捉え方や受け止め方を検討する。

＜授業の到達目標＞
1．領域「表現」のねらいと内容を踏まえて表現の指導法について説明できる。
2．子どもの年齢・発達・適性にあわせた表現の捉え方や受け止めができる。
3．表現のための様々な素材や方法を用いた体験を通して、その知識や技術を保育実践に使用できる。

＜授業方法＞
グループワーク、実技、個人製作と発表

＜授業計画＞
第1回　オリエンテーション、領域「表現」とは　―表出から表現へ―
第2回　領域「表現」のねらいと内容及び評価、表現の指導法について
第3回　てあそび、うたあそびから表現へ（音楽表現）
第4回　身の回りの音を探してみよう（音楽表現）
第5回　身体を使って表現しよう（身体表現）
第6回　子どもと楽しむ創作ダンス作り（身体表現）
第7回　身近な素材でおもちゃ作り「画用紙で作るシアター」（造形表現）
第8回　身近な素材でおもちゃ作り「紙皿で作る吹きコマ」（造形表現）
第9回　児童文化財の種類と活用について～様々なシアターの紹介と実演～（言語表現）
第10回　うたってあそぼう！パネルシアター①「作る」（言語表現）
第11回　うたってあそぼう！パネルシアター②「演じる」（言語表現）
第12回　保育の構想に向けて　～指導案作成のための教材・素材選びについて～
第13回　総合的な表現活動へ①　指導案をもとにした授業実践
第14回　総合的な表現活動へ②　指導案をもとにした授業実践
第15回　レポート課題作成、まとめ

＜授業時間外学修＞
・毎回の授業まとめ（A4用紙に授業概要と気づきをまとめる）
・パネルシアターの作成　※授業時間内に終わらない場合

＜テキスト＞
なし

＜参考書・参考資料＞
・各回の内容に合わせて授業担当者が配布する資料
・『幼稚園教育要領解説』文部科学省（2017）フレーベル館
・『保育所保育指針解説書』厚生労働省（2017）フレーベル館
・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省・(2017) フレーベル館
・『実践　心ふれあう子どもと表現』松家まきこ・鈴木範之 編（2021）みらい
・『表現指導法』上野奈初美（2020）萌文書林

＜成績評価＞
① レポート課題（50%）、②実技発表（20%）③提出物（15%）振り返り・感想記入（15%）を基本的配分とする総合評価

＜備考＞
毎回の配布物及び欠席者への課題はクラスルームで共有する。

保育原理			須藤 克	
必修科目	講義	2単位	1年次	単独
教員養成課程の区分	―			
保育士養成課程の区分	保育の本質・目的に関する科目「保育原理」			
担当教員の実務経験	保育士(19年)			

＜授業概要＞
教育・保育における諸問題、現代社会の子どもをめぐる環境を踏まえ、保育を支える基礎理念を多角的な視点から習得する。又、教育・保育における専門性、専門職としての意義を理解し、使命感や倫理観を育むことを目的とする。

＜授業の到達目標＞
「保育とはなにか？」保育士のあるべき姿、保育士の資質について学ぶ。又、教育・保育の歴史、現代の問題を知り、現代を生きる子どもに必要な保育を学ぶ。

＜授業方法＞
講義を中心とする。又、グループワークを交え、個々の意見を聞きながら担当教員の経験に基づいた保育現場の実情を伝えていく。

＜授業計画＞
第1回　保育とは
第2回　保育のねらいと内容
第3回　保育所の特徴と意義
第4回　保護者支援
第5回　保育所保育指針と保育所の役割
第6回　子どもの発達とは
第7回　環境による保育
第8回　教育・保育における専門性
第9回　生きる力の基礎
第10回　生活と遊び
第11回　個と集団
第12回　保育計画と実践
第13回　西洋の保育の歴史
第14回　日本の保育の歴史・現状と課題
第15回　総まとめ・試験

＜授業時間外学修＞
オフィスアワーとして授業前は講師控室、授業終了後、教室内で受け付ける。

＜テキスト＞
保育所保育指針 解説　平成30年2月　厚生労働省
幼稚園教育要領 解説　平成30年2月　文部科学省
幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説　平成30年2月　内閣府・厚生労働省・文部科学省
※その他適宜必要な資料を講義内で配布する。

＜参考書・参考資料＞
新版　保育原理　(一藝社)

＜成績評価＞
定期試験60%　授業への取り組み40%(提出物含む)

＜備考＞
特になし。

保育実習Ⅰ（施設）			小林　根	
必修科目	実習	2単位	1年次	単独
教員養成課程の区分	―			
保育士養成課程の区分	「保育実習Ⅰ」			
担当教員の実務経験	介護系施設17年			

＜授業概要＞
児童福祉施設等での実習を通じて、養護の必要な子どもや障害児（者）と関わり、施設保育士としての確かな知識、技術を習得する。また、他の専門職との連携や生活環境の整備、地域社会における施設の役割機能について総合的に学ぶ。

＜授業の到達目標＞
1. 児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解することができる。
2. 観察や関りを通して養護の必要な子どもや障害児（者）の理解を深めることができる。
3. 養護の必要な子どもや障害児（者）及びその家族への支援方法について理解することができる。
4. 施設保育士の業務内容や職業倫理について理解することができる。

＜授業方法＞
本校が指定する児童福祉施設や児童相談所（一時保護所）に学生を配当し、施設保育士の指導を受けながら児童・障害児（者）の支援方法の実際を学ぶ。

＜実習計画＞
1．施設の役割と機能
（1）施設における子ども・利用者の生活と保育士の援助や関わりを知る。
（2）施設の生活と一日の流れから児童福祉施設の役割・機能を学ぶ。
2．子ども・利用者の理解
（1）子どもの観察とその記録 を通して理解する。
（2）個々の状態に応じた援助や関わりを理解する。
3．施設における子ども・利用者の生活と環境 。
（1）計画に基づく活動や援助の実際を学ぶ。
（2）子ども・利用者の心身の状態に応じた生活と対応の方法について学ぶ。
（3）子どもの活動と環境を知る。
（4）健康管理、安全の確保を理解する。
4．計画と記録
（1）支援計画の理解と活用の方法を理解する。
（2）記録に基づく省察・自己評価 ができる。
5．専門職としての保育士の役割と倫理
（1）施設保育士の業務内容を理解する。
（2）職員間の役割分担や連携の方法を学ぶ。
（3）保育士の社会的役割と職業倫理を学ぶ。

＜授業時間外学修＞
事前オリエンテーションにて施設の概要を把握し、実習に備えた準備をしておく。

＜テキスト＞
施設実習ガイド（ミネルヴァ書房）

＜参考書・参考資料＞
2024年度実習の手引き（聖ヶ丘教育福祉専門学校　実習指導部）
保育所保育指針（平成29年3月告示　厚生労働省）

＜成績評価＞
施設評価40%　日誌内容50%、実習報告書10%

＜備考＞
施設実習Ⅰの単位取得のためには、施設実習指導Ⅰの事前指導を3分の2以上出席していなければならない。実習終了後は施設実習指導Ⅰにおいて事後指導を受けなければならない。

保育実習Ⅰ（保育所）			清水　かおり	
必修科目	演習	2単位	1年次	複数
教員養成課程の区分	―			
保育士養成課程の区分	「保育実習Ⅰ」			
担当教員の実務経験	保育士・保育教諭（保育所・認定こども園5年）、幼稚園教諭（幼稚園6年）、乳幼児教育分野における国際協力（2年）			

＜授業概要＞
保育士資格取得のため、学外の保育実習現場において実習体験を行う。
保育所における保育者の役割と、0歳から5歳児まで年齢の異なる子どもへの関わり方を学ぶ。
乳児期から幼児期の子どもと実際に関わり、子ども理解を深める。
保育所の社会的役割を学ぶ。

＜授業の到達目標＞
1．保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。
2．観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。
3．既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に理解する。
4．保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。
5．保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。

＜授業方法＞
保育所において実際に保育を観察、参加し、実践的に保育を学習する。

＜授業計画＞
1．保育所の役割と機能
（1）保育所における子どもの生活と保育士の援助や関わり
（2）保育所保育指針に基づく保育の展開
2．子どもの理解
（1）子どもの観察とその記録による理解
（2）子どもの発達過程の理解
（3）子どもへの援助や関わり
3．保育内容・保育環境
（1）保育の計画に基づく保育内容
（2）子どもの発達過程に応じた保育内容
（3）子どもの生活や遊びと保育環境
（4）子どもの健康と安全
4．保育の計画・観察・記録
（1）全体的な計画と指導計画及び評価の理解
（2）記録に基づく省察・自己評価
5．専門職としての保育士の役割と職業倫理
（1）保育士の業務内容
（2）職員間の役割分担や連携・協働
（3）保育士の役割と職業倫理

＜授業時間外学修＞
保育実習指導Ⅰで学んできた実践的対応や理論的枠組を理解できているか振り返る。
基本的な保育所の役割や、各実習先の概要について予習・復習して臨む。

＜テキスト＞
『幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド』（小櫃智子、守巧、佐藤恵、小山朝子　わかば社　2017年版）

＜参考書・参考資料＞
「実習の手引き」（本学の実習参考資料）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示　内閣府・文部科学省・厚生労働省）
保育所保育指針（平成29年3月告示　厚生労働省）

＜成績評価＞
実習園評価（40%）、日誌（50%）、実習報告書（10%）

＜備考＞
保育実習Ⅰ（保育所）の実施は、保育実習指導Ⅰ（保育所）の事前指導の出席要件が授業回数の3分の2以上を満たしていなければならない。
保育実習指導Ⅰ（保育所）と相互の履修認定をもって単位認定の要件とする。

保育実習Ⅱ（施設）			蠣﨑　尚美	
選択科目	実習	2単位	2年次	単独
教員養成課程の区分	―			
保育士養成課程の区分	「保育実習Ⅱ」			
担当教員の実務経験	乳児全戸訪問事業（厚生労働省）訪問員14年（現任） 地域包括支援センター 社会福祉士（非常勤）3年			

＜授業概要＞

本校が指定する児童福祉施設や児童相談所（一時保護所）に学生を配当し、施設保育士の指導を受けながら児童・障害児（者）の支援方法の実際を学ぶ。

＜授業の到達目標＞

1．既習の教科目や保育実習・施設実習の経験を踏まえ、児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能について実践を通して、理解する。
2．　家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉、社会的養護、 障害児支援に対する理解をもとに、支援計画の立案・実施を経験し、保護者支援、家庭支援の知識、技術、判断力を習得する。
3．保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけ て理解する。
4．実習における自己の課題を理解する。

＜授業方法＞

保育所や施設実習Ⅰで経験した施設以外の児童福祉施設に学生を配当し、施設保育士の指導を受けながら児童・障害児（者）の個別支援計画の立案や相談支援の実際を学ぶ。

＜授業計画＞

1．児童福祉施設等(保育所以外)の役割と機能
（1）施設における子ども・利用者の生活と保育士の援助や関わりを知る。
（2）施設の生活と一日の流れから児童福祉施設の役割・機能を学ぶ。
2．施設における支援の実際
（1）受容し、共感・傾聴する態度を形成する。
（2）個人差や生活環境に伴う子ども・利用者のニーズを把握し、子ども・利用者の理解を深める。
（3）個別支援計画の立案及び作成と実践
（4）子ども（利用者）の家族への相談支援と対応
（5）各施設における多様な専門職との連携・協働
（6）地域社会との連携・協働
3．保育士の多様な業務と職業倫理
4．保育士としての自己課題の明確化

＜授業時間外学修＞

事前オリエンテーションにて施設の概要を把握し、実習に備えた準備をしておく。

＜テキスト＞

施設実習ガイド（ミネルヴァ書房）

＜参考書・参考資料＞

2024年度実習の手引き（聖ヶ丘保育専門学校　実習指導部）
保育所保育指針（平成29年3月告示　厚生労働省）

＜成績評価＞

施設評価40%　日誌内容50%、実習報告書10%

＜備考＞

・施設実習Ⅱの単位取得のためには、施設実習Ⅰ及び施設実習指導Ⅰの単位を取得したうえで、施設実習指導Ⅱの事前指導を3分の2以上出席していなければならない。実習終了後は施設実習指導Ⅱにおいて事後指導を受けなければならない。

保育実習Ⅱ（保育所）			清水　かおり	
選択科目	演習	2単位	2年次	複数
教員養成課程の区分	―			
保育士養成課程の区分	「保育実習Ⅱ」			
担当教員の実務経験	保育士・保育教諭（保育所・認定こども園5年）、幼稚園教諭（幼稚園6年）、乳幼児教育分野における国際協力（2年）			

＜授業概要＞
保育所の役割や機能について、乳幼児理解と個に応じた援助について学ぶ
集団やクラス運営における援助の仕方について学ぶ
計画と環境構成について実践を交えながら理解を深める
実際の家庭・地域との連携について見て学ぶ

＜授業の到達目標＞
1．保育所の役割や機能について、具体的な実践を通して理解を深める。
2．子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して、保育の理解を深める。
3．既習の教科目や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、保育及び子育て支援について総合的に理解する。
4．保育の計画・実践・観察・記録及び自己評価等について、実際に取り組み、理解を深める。
5．保育士の業務内容や職業倫理について、具体的な実践に結びつけて理解する。
6．実習における自己の課題を明確化する。

＜授業方法＞
保育所において実際に保育を観察、参加し、実践的に保育を学習する。

＜授業計画＞
1．保育所の役割や機能の具体的展開
（1）養護と教育が一体となって行われる保育
（2）保育所の社会的役割と責任
2．観察に基づく保育の理解
（1）子どもの心身の状態や活動の観察
（2）保育士等の援助や関わり
（3）保育所の生活の流れや展開の把握
3．子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携
（1）環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育
（2）入所している子どもの保護者に対する子育て支援及び地域の保護者等に対する子育て支援
（3）関係機関や地域社会との連携・協働
4．指導計画の作成・実践・観察・記録・評価
（1）全体的な計画に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程の理解
（2）作成した指導計画に基づく保育の実践と評価
5．　保育士の業務と職業倫理
（1）多様な保育の展開と保育士の業務
（2）多様な保育の展開と保育士の職業倫理
6．自己の課題の明確化

＜授業時間外学修＞
保育実習Ⅱのスケジュールを把握し、日々の省察を日誌にまとめて翌日の実習にいかす。
これまでの実習を省察し、自らの課題についてまとめる。

＜テキスト＞
『幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド』（小櫃智子、守巧、佐藤恵、小山朝子　わかば社　2017年版）

＜参考書・参考資料＞
「実習の手引き」（本学の実習参考資料）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示　内閣府・文部科学省・厚生労働省）
保育所保育指針（平成29年3月告示　厚生労働省）

＜成績評価＞
実習園評価（40%）、日誌（50%）、実習報告書（10%）

＜備考＞
保育実習Ⅱの実施は、保育実習指導Ⅱの事前指導の出席要件が授業回数の3分の2以上を満たしていなければならない。
保育実習指導Ⅱと相互の履修認定をもって単位認定の要件とする。

保育実習事前事後指導Ⅰ（施設）			小林　根	
必修科目	演習	1単位	1年次	単独
教員養成課程の区分	―			
保育士養成課程の区分	「保育実習Ⅰ」			
担当教員の実務経験	介護系施設17年			

＜授業概要＞
保育所以外の児童福祉施設における実習を前に、施設実習の意義や目的を認識し、児童福祉施設の種別や役割機能の理解を深めるため、テキストや資料を活用しながらグループワークや車椅子介助などの演習を取り入れ、実習に向けての事前指導を行うとともに、オリエンテーション時の提出書類の作成、日誌の書き方、実習計画書の作成など、実習に必要となる書類等の作成指導を行う。また、実習後は事後指導を行い、実習の振り返りの機会を持つとともに、実習報告書の作成と実習中の体験を発表する。

＜授業の到達目標＞
1．施設実習の意義・目的を理解することができる。
2．実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にすることができる。
3．実習施設における子どもや障害児（者）の人権と最善の利益を考慮することができる。
4．プライバ シーの保護と守秘義務等について理解することができる。
5．実習の実践・観察・記録の方法や内容について具体的に理解する。
6．実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。

＜授業方法＞
座学だけでなく学生の能動的な学習を促進するため、実習施設の事前把握（調べ学習）を行うとともに、「障害者観」や養護の必要な「子ども観」をテーマにグループワークを実施する。また、その結果をレポートにまとめ、発表の機会を持ち、実習に備える。実習後は報告書を作成し、グループワークにおいて互いの体験を共有する機会を持つ。

＜授業計画＞
第1回　施設実習とは（施設実習の意義・目的について）
第2回　施設実習の概要と全体像と施設実習の主な流れ
第3回　施設の種別と目的、形態と役割機能（養護系施設と障害系施設、入所系施設と通所系施設）
第4回　施設のおける保育士の業務・実習の内容と課題の明確化
第5回　施設を利用する子ども・障害児（者）の理解・子どもの人権と最善の利益の考慮
第6回　障害を持つ子どもの介助方法（車いす操作）
第7回　障害を持つ人の歩行介助（歩行介助・白杖体験）
第8回　実習に際しての留意事項（プライバシーの保護と守秘義務・権利擁護）
第9回　実習に向けての事前学習・施設実習計画書の作成と目標の立て方。
第10回　記録（日誌）の書き方（実習における観察、記録及び評価の方法）
第11回　施設種別ごとの日課と業務・実習の心得と施設職員との関わり
第12回　児童施設における感染症予防とリスクマネジメント
第13回　事前オリエンテーションと実習施設の把握
第14回　実習直前の確認と指導、及び実習後の日誌返却・提出の確認と指導
第15回　事後指導における実習の総括と課題の明確化・振り返りと自己評価・実習報告書作成

＜授業時間外学修＞
・予習ノートの作成と提出：テキストの中で授業に関連する部分（10箇所）を事前に指定し、授業前までに感想や気づいたことを書いてもらうノートを作成する。予習ノートの進み具合を確認するため、定期的に提出と返却実施する。
・施設実習計画書（下書き）の提出を求め、添削の上授業内にて返却し清書させる。清書したものはオリエンテーション当日に他の書類とともに施設へ持参するよう指導している。
・本校指定の書式で実習の心構えとなる「はじまりにあったって」の提出を求め、添削の上、授業内で返却し清書させる。実習初日に提出するよう指導する。

＜テキスト＞
施設実習ガイド（ミネルヴァ書房）

＜参考書・参考資料＞
2024年度実習の手引き（聖ヶ丘教育福祉専門学校実習部）
保育所保育指針（平成29年3月告示　厚生労働省）

＜成績評価＞
予習ノートの提出（60%）実習計画書（10%）始まりに当たって（10%）実習報告書（10%）
実習振り返りシート（10%）

＜備考＞
施設実習指導Ⅰにおいて、事前指導の 3 分の 2 以上を出席しなければ施設実習を行うことはできない。また、単位認定のためには施設実習指導Ⅰの事後指導を受けなければならない。

保育実習事前事後指導Ⅰ（保育所）			清水　かおり	
必修科目	演習	1単位	1年次	複数
教員養成課程の区分	―			
保育士養成課程の区分	「保育実習Ⅰ」			
担当教員の実務経験	保育士・保育教諭（保育所・認定こども園5年）、幼稚園教諭（幼稚園6年）、乳幼児教育分野における国際協力（2年）			

＜授業概要＞
・保育実習Ⅰ（保育所）を実施する上で必要な事項について学び、実習の準備をしていく。
・保育所の役割・機能、また保育者の役割と様々な年齢の子どもへの関わり方の配慮を知る。
・乳児期から幼児期の成長プロセスを知り、子ども理解を深めると共に、保育士等の専門職の役割や職業倫理についても理解を深める。

＜授業の到達目標＞
1．保育実習の意義・目的を理解する。
2．実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。
3．実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。
4．実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。
5．実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。

＜授業方法＞
調べ学習を取り入れることで実習園の特徴を事前に捉え、実習のイメージがもてるようにしていく。

＜授業計画＞
（事前指導）
第1回　保育実習Ⅰ（保育所）の意義・目的・内容の理解と心構え
第2回　保育所の役割、保育の計画及び評価の理解、職員間の連携と協働
第3回　子どもの生活や遊びと保育環境／日誌の書き方①＜環境図＞
第4回　子どもの理解（1）乳児の発達と保育内容
第5回　子どもの理解（2）乳児の1日の流れ
第6回　子どもの理解（3）幼児の発達と保育内容
第7回　子どもの理解（4）幼児の1日の流れ
第8回　実習課題の立て方
第9回　子どもの観察と子どもへの援助や関わり／日誌の書き方②＜時系列＞
第10回　子どもの観察と子どもへの援助や関わり／日誌の書き方③＜エピソード＞
第11回　子どもの観察と子どもへの援助や関わり／日誌の書き方④＜ねらいと省察・自己評価＞
第12回　職業倫理等、実習に際する留意事項の確認
第13回　事前指導のまとめと実習後の流れの確認
（事後指導）
第14回　実習の振り返り（1）実習の総括と自己評価
第15回　実習の振り返り（2）課題の明確化（グループワーク）

＜授業時間外学修＞
テキスト内容や「実習の手引き」（本学の実習参考資料）を繰り返しに読み、実習に関する規則や内容について理解しておく 。
0歳～就学前の子どもの発達について繰り返し確認しておく。

＜テキスト＞
『幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド』（小櫃智子、守巧、佐藤恵、小山朝子　わかば社　2017年版）

＜参考書・参考資料＞
「実習の手引き」（本学の実習参考資料）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示　内閣府・文部科学省・厚生労働省）
保育所保育指針（平成29年3月告示　厚生労働省）

＜成績評価＞
課題・提出物（100%）

＜備考＞
保育実習指導Ⅰ（保育所）の単位取得には、通常の出席要件に加えて事前指導および事後指導それぞれの授業回数の3分の2以上に出席すること、および保育実習Ⅰ（保育所）の単位修得が必要となる。

保育実習事前事後指導Ⅱ（施設）			蠣﨑　尚美	
選択科目	演習	1単位	2年次	単独
教員養成課程の区分	―			
保育士養成課程の区分	「保育実習Ⅱ」			
担当教員の実務経験	乳児全戸訪問事業（厚生労働省）訪問員 14 年（現任） 地域包括支援センター 社会福祉士（非常勤）3 年			

＜授業概要＞
施設実習Ⅰの実習を踏まえ、施設実習の意義や目的を再確認し、児童福祉施設の種別や役割機能の理解を深めるため、テキストや資料を活用しながらグループワークを行う。また、施設実習Ⅰとは異なる施設での実習に向けて事前指導を行うとともに、模擬支援計画書の作成を行う。また、実習後は事後指導を行い、実習の振り返りの機会を持つとともに、実習報告書の作成と実習の体験を発表する。

＜授業の到達目標＞
1．施設実習Ⅱの意義と目的を理解し、養護の必要な子どもや障害児（者）の支援について総合的に理解できる。
2．既習の教科目や保育実習Ⅰ（保育所・施設）の経験を踏まえ、児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能について理解を深める。
3．子ども家庭福祉、社会的養護、 障害児支援に対する理解をもとに、支援の目標設定と計画の立案ができる。
4．保育士の専門性と職業倫理について理解できる。
5．家庭と地域の生活実態を理解し、保護者支援、家庭支援の知識、技術、判断力を習得する。
6．施設実習Ⅰの経験から、施設実習Ⅱにおける自己の課題を理解できる。

＜授業方法＞
座学だけでなく学生の能動的な学習を促進するため、実習施設の事前把握（調べ学習）を行うとともに、事例を通して支援目標の設定と支援計画の立案を行い、対人援助の具体的方法を学ぶ。支援計画書を持ち寄り、グループワークを実施し、グループとしての支援計画を立案するとともに、他職種連携や担当者会議の実際を学ぶ。また、その結果をレポートにまとめ、発表の機会を持ち、実習に備える。実習後は報告書を作成し、グループワークにおいて互いの体験を共有する機会を持つ。

＜授業計画＞
第 1 回　実習の総括と自己評価および課題の明確化
　　施設実習による総合的な学び（施設実習Ⅰでの経験を振り返る）
第 2 回　施設の種別とその機能
第 3 回　子ども（利用者）の状態に応じた適切な関わり（養護系施設）
第 4 回　子ども（利用者）の状態に応じた適切な関わり（障害系施設）
第 5 回　施設保育士の役割と支援の実践
第 6 回　支援目標の設定と支援計画の立案および実践(計画と観察、記録、自己評価と改善)
第 7 回　保育の知識・技術を活かした保育実践
第 8 回　施設保育士の専門性と職業倫理
第 9 回　日本保育士会倫理綱領の理解・保育観の形成と深まり
第 10 回　子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解
第 11 回　子どもの保育と保護者支援・施設と地域社会との関わり
第 12 回　実習直前の確認と指導、及び実習後の日誌返却・提出の確認と指導
第 13 回　事後指導：省察　実習振り返り記入
第 14 回　事後指導：グループワーク　種別ごとの振り返り
第 15 回　事後指導：グループワーク　実習報告会

＜授業時間外学修＞
・保育実習Ⅰ（施設）の実習日誌を見直し、施設での 1 日の流れや子ども・利用者の姿と支援内容の結びつきを学ぶ。
・子ども・利用者の姿に合った支援に向けて、テキストや図書などを活用しながら、施設利用者児の興味関心に相応しい支援内容を考える。

＜テキスト＞
施設実習ガイド（ミネルヴァ書房）

＜参考書・参考資料＞
2024 年度実習の手引き（聖ヶ丘保育専門学校実習部）
保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示　厚生労働省）

＜成績評価＞
課題 50%　授業態度 50%

＜備考＞
・施設実習指導Ⅱにおいて、事前指導の 3 分の 2 以上を出席しなければ施設実習を行うことはできない。また、単位認定のためには施設実習指導Ⅱの事後指導を受けなければならない。
・第 1 回目のオリエンテーションには必ず出席すること。

保育実習事前事後指導Ⅱ（保育所）			清水　かおり	
選択科目	演習	1単位	2年次	複数
教員養成課程の区分	―			
保育士養成課程の区分	「保育実習Ⅱ」			
担当教員の実務経験	保育士・保育教諭（保育所・認定こども園5年）、幼稚園教諭（幼稚園6年）、乳幼児教育分野における国際協力（2年）			

＜授業概要＞
1．保育所の役割や機能について保育実習IIを通して理解を深める実習の意義と目的を理解する。
2．乳幼児の一人ひとりに応じたかかわりと援助方法と、集団やクラス運営における援助方法を明らかにすることで乳幼児理解と保育の理解について学ぶ。
3．保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価を踏まえた保育の改善と環境構成について実践や事例を通して学ぶ。
4．保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解するとともに、保育士としての自己の課題を明確化する。
5．実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。
6．既習の教科や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、乳幼児の保育実践力を培うと共に、保護者支援、家庭地域との連携について学ぶ。

＜授業の到達目標＞
1．保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解する。
2．実習や既習の教科目の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。
3．保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解する。
4．保育士の専門性と職業倫理について理解する。
5．実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。

＜授業方法＞
随時ディスカッションなどの意見交換を取り入れ、実習や今後の実践への期待や不安を他者と共有することによって保育現場での学びをより具体的にしていく。
模擬保育を取り入れ、責任実習にむけた準備をより具体的に行う。

＜授業計画＞
（事前指導）
第1回　保育実習IIの意義・目的・内容の理解と心構え
第2回　実習課題の立て方と実践に向けて
第3回　保育実習による総合的な学び　（1）子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解
第4回　保育実習による総合的な学び　（2）子どもの保育と保護者支援
第5回　保育の実践力（1）子どもの状態に応じた適切な関わり
第6回　保育の実践力（2）保育の知識・技術を活かした保育実践について考える
第7回　計画と観察、記録、自己評価　（1）子どもの実態に沿った具体的な指導計画の立案の仕方
第8回　計画と観察、記録、自己評価　（2）子どもの実態に沿った具体的な指導計画の立案
第9回　計画と観察、記録、自己評価　（3）立案した指導計画の実践（模擬保育）
第10回　保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善（1）保育実習Ⅰの課題から
第11回　保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善（2）学びを深める様々な記録形式
第12回　保育士の専門性と職業倫理等、実習に際する留意事項の確認
（事後指導）
第13回　実習の振り返り（1）実習の総括と自己評価
第14回　実習の振り返り（2）学びの共有と再確認（グループワーク）
第15回　実習の振り返り（3）課題の明確化（グループワーク）

＜授業時間外学修＞
保育実習Ⅰの実習日誌を見直し、保育所の1日の流れや子どもの姿と保育内容との結びつきを学ぶ。子どもの姿に合った保育の実践に向けて、テキストや保育図書などを活用しながら、年齢や興味関心に相応しい保育内容を考える。

＜テキスト＞
『幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド』（小櫃智子、守巧、佐藤恵、小山朝子　わかば社　2017年版）

＜参考書・参考資料＞
「実習の手引き」（本学の実習参考資料）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示　内閣府・文部科学省・厚生労働省）
保育所保育指針（平成29年3月告示　厚生労働省）

＜成績評価＞
課題・提出物（100%）

＜備考＞
保育実習指導Ⅱ（保育所）の単位取得には、通常の出席要件に加えて事前指導および事後指導それぞれの授業回数の3分の2以上に出席すること、および保育実習Ⅱ（保育所）の単位修得が必要となる。

保育内容指導法			田村　雅美	
必修科目	演習	1単位	1年次	単独
教員養成課程の区分	領域及び保育内容の指導法に関する科目「保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）」			
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目「保育内容総論」			
担当教員の実務経験	保育士（保育所２７年）			

＜授業概要＞

1幼児教育における育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領等に示された内容から保育の全体構造を学ぶ。

2幼児の発達や特性を知り主体的・対話的で深い学びに結び付く保育内容指導法の基礎を具体的な事例や視聴覚教材を使用し学習する。

3対象児の発達段階に適した指導案を知りや教材研究を行う。

＜授業の到達目標＞

1幼稚園教育要領等における幼児教育の基本と各領域のねらい内容を知り保育の全体構造を理解する

2幼児の特性と発達を理解し幼児の具体的な保育内容を知り、保育を想定する

3保育計画・指導案の構成を理解し、教材研究をする。

4学びと育ちの連続性（小学校への接続）を知る。

＜授業方法＞

調べ学習・体験学習

＜授業計画＞

第1回　授業についてのオリエンテーション・「保育内容」とは何か

第2回　幼稚園・保育所・幼保連携型認定こども園と保育内容

第3回　遊びと学び・子どもを見るまなざし

第4回　子どもの発達・乳児と1歳以上3歳未満児の保育内容指導法

第5回　領域「健康」と保育内容指導法　体の発達と遊び・健康で安全な生活

第6回　領域「人間関係」と保育内容指導法　子どもの発達と人との関係

第7回　領域「環境」と保育内容指導法　子どもの人的物的環境・自然環境

第8回　領域「言葉」と保育内容指導法　子どもの言葉を育む・絵本教材研究

第9回　領域「表現」と保育内容指導法　遊びの中で育つ感性・物を使った表現

第10回　総合的な保育内容指導法

第11回　子どもの生活場面での保育内容指導法

第12回　個と集団の育ち　様々な保育形態と保育

第13回　学びの連続性「小学校への接続」をふまえた保育

第14回　子どもの姿と指導計画

第15回　まとめ・筆記試験

＜授業時間外学修＞

保育所保育指針等の予習

＜テキスト＞

はじめて学ぶ「保育内容の指導法」谷村宏子編著（ミネルヴァ書房）

＜参考書・参考資料＞

保育所保育指針・幼稚園教育要領

＜成績評価＞

定期試験（５０％）演習内容の振り返り・提出物（５０％）

＜備考＞

特になし。

幼児と音楽表現			野戸智美／高橋拓真	
必修科目	演習	1単位	2年次	単独
教員養成課程の区分	領域及び保育内容の指導法に関する科目「表現」			
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目「幼児と音楽表現」			
担当教員の実務経験	―			

＜授業概要＞
幼児期における音楽表現や、発達との関連を理解するための基本的事項を学ぶと共に、実践を通して豊かな音楽性を養い、幼児の表現を支えるための知識・技能・表現力の向上を目指す。

＜授業の到達目標＞
幼児期の表現が生成される過程を理解し、受容することができる。
身体の諸感覚を通して表現の多様性を修得し、表現することの楽しさや可能性、重要性を説明することができる。
協働して表現することを通し、多様な表現を受け止め共感する能力を養うことができる。
音楽遊びを通して豊かな音楽性を育み、幼児の表現活動を展開させる技術を修得することができる。

＜授業方法＞
グループワーク、発表

＜授業計画＞
第1回　ガイダンス
第2回　楽器作り①
第3回　楽器作り②
第4回　楽器作り③
第5回　音楽会準備・企画①
第6回　音楽会準備・企画②
第7回　音楽会準備③
第8回　音楽会準備④
第9回　音楽会 リハーサル
第10回　音楽会
第11回　音楽会 振り返り
第12回　合奏①
第13回　合奏②
第14回　合奏③
第15回　合奏④

＜授業時間外学修＞
事後学修として、毎時の振り返り記述を実践・提出すること。

＜テキスト＞
特になし

＜参考書・参考資料＞
『子どものための音楽表現技術－感性と実践力豊かな保育者へ－』今泉明美、他　株式会社萌文書林
『改訂　幼稚園教諭・保育士養成課程　幼児のための音楽教育』神原雅之、他　教育芸術社
『幼稚園教育要領』（平成29年3月告示　文部科学省）
『保育所保育指針』（平成20年3月28日告示　厚生労働省）
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成29年3月告示　内閣府・文部科学省・厚生労働省）

＜成績評価＞
受講状況　60%、各授業回レポート（リフレクションシート）40%
60～69点を「可」、70～79点を「良」、80点以上を「優」として単位認定する。

＜備考＞
全ての演習への参加、及びリフレクションシート提出が、学修を完遂するための必要条件である。

幼児と環境			岸本　圭子	
必修科目	演習	1単位	1年次	単独
教員養成課程の区分	領域及び保育内容の指導法に関する科目「環境」			
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目「保育内容の理解と方法」			
担当教員の実務経験	幼稚園教員(幼稚園・20年)			

＜授業概要＞
領域「環境」の指導に関連する、幼児を取り巻く環境や、幼児と環境との関りについての専門的事項における感性を養い、知識・技術を身につける。そのため、現代の幼児を取り巻く環境の変化を理解し、多様化した幼児の生活・遊びに対応できる保育者を目指す。

＜授業の到達目標＞
1）幼児を取り巻く環境と、幼児の発達にとっての意義を理解する。
2）幼児期の思考・科学的概念の発達を理解する。
3）幼児期の標識・文字等、情報・施設との関わりの発達を理解する。

＜授業方法＞
プリントに加え、視覚教材や事例を通して学生自身が調べ学習をし、グループワークや体験学習などを通して、実践的に知識や技術を身につける。

＜授業計画＞
第1回　オリエンテーション(授業概要の説明)　子どもと環境について
第2回　理論編　子どもが生きる世界①(幼児を取り巻く環境)
第3回　理論編　子どもが生きる世界②(幼児期の体験)
第4回　理論編　子どもが生きる世界③(乳幼児期の思考・概念の発達)
第5回　内容編　物との関わり①（身近な物との関わりを楽しむ経験)
第6回　内容編　物との関わり②（道具・用具との関わりを楽しむ経験)
第7回　内容編　生き物との関わり①（植物に関わり親しむ経験)
第8回　内容編　生き物との関わり②（虫・小動物との関わりを親しむ経験)
第9回　内容編　自然との関わり①（季節の出来事・自然現象に関わる経験)
第10回　内容編　自然との関わり②（大自然に触れる経験)
第11回　内容編　情報との関わり①（数量・図形に関わり親しむ経験)
第12回　内容編　情報との関わり②（標識・文字に関わり親しむ経験)
第13回　内容編　情報との関わり③（社会（情報・施設）に関わり親しむ経験)
第14回　幼児期の主体的な学びを育てる環境について
第15回　まとめ・試験

＜授業時間外学修＞
次回の授業内容に基づき調べ学習(資料やテキストを読む)や、保育教材の準備など行う。
学習内容を復習し、自分の考えをまとめる。

＜テキスト＞
特になし

＜参考書・参考資料＞
「幼稚園教育要領解説　(平成30年3月)」文部科学省
「保育所保育指針解説　(平成30年3月)」厚生労働省
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説　(平成30年3月)」内閣府・文部科学省・厚生労働省

＜成績評価＞
試験50%　課題30%　授業の振り返り20%

＜備考＞
特になし

幼児と健康			小貫　凌介	
必修科目	演習	1単位	2年次	単独
教員養成課程の区分	領域及び保育内容の指導法に関する科目「健康」			
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目「保育内容の理解と方法」			
担当教員の実務経験	―			

＜授業概要＞

本科目では、乳幼児の基本的な生活習慣や心身の健康に関する内容、運動的活動に関する内容を中心に、心と体の調和のとれた発達について理解を深める。

健康な生活を営むための幼稚園教諭の役割などについての実践的な内容について学ぶ。

＜授業の到達目標＞

1　幼稚園指導要領に示される「健康」の領域のねらいや内容を理解する。

2「健康」の領域を通じて何を育てるべきか、そのためにはどのような援助が必要かについて理解し、心と体の両面の健康課題について把握する。また、安全な生活と怪我の予防に関する具体的な方法について習得する

＜授業方法＞

対面授業、講義と実技演習を複合的に行う。

＜授業計画＞

第1回　ガイダンス（授業概要、受講上の注意点など）・幼児と健康のねらい及び内容
第2回　幼児の健康　健康の定義と乳幼児期の健康の意義
第3回　体の諸機能の発達と生活習慣の形成　乳幼児の体の発達的特徴
第4回　体の諸機能の発達と生活習慣の形成　乳幼児の基本的生活習慣の形成と意義
第5回　安全な生活と怪我や病気の予防　幼児の安全教育・健康管理
第6回　安全な生活と怪我や病気の予防　幼児期の怪我の特徴や病気の予防、安全管理
第7回　幼児期の運動発達と身体活動　乳幼児期の運動発達の特徴と多様な動きを獲得することの意義
第8回　幼児期の運動発達と身体活動　日常生活における幼児の動きの経験と配慮
第9回　基本的動作と多様な動きの獲得
第10回　幼児の運動量と体力：昔と今の比較
第11回　身近な環境や遊具を用いた遊び
第12回　小型遊具を用いた遊び(ボール・縄・フープ)
第13回　大型遊具を用いた遊び（マット・跳び箱・平均台）
第14回　全体の振り返り、まとめ
第15回　期末試験

＜授業時間外学修＞

事後学修として、毎時の振り返り記述を実施し、提出すること。

各自記録する授業ノートおよび配布資料を整理し、復習すること。

＜テキスト＞

なし

＜教科書・参考資料＞

幼稚園教育要領　（平成29年3月告示　文部科学省）

保育所保育指針　（平成29年3月告示　厚生労働省）

幼保連携型認定こども園教育・保育要領　（平成29年3月告示　内閣府・文部科学省・厚生労働省）

＜成績評価＞

期末試験(80%)、授業態度(20%)

＜備考＞

特になし。

幼児と言葉			甲田　美香	
必修科目	演習	1単位	2年次	単独
教員養成課程の区分	領域及び保育内容の指導法に関する科目「言葉」			
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目「保育内容の理解と方法」			
担当教員の実務経験	幼稚園教員(幼稚園・16年)			

＜授業概要＞
領域「言葉」の指導の基盤となる、幼児が豊かな言葉や表現を身に付け、想像する楽しさを広げるために必要な専門的事項に関する知識を身に付ける。
・人間にとっての言葉の意義や機能を理解する。
・言葉に対する感覚を豊かに実践について理解する。
・幼児にとっての児童文化財の意義を、実践を通して理解する。

＜授業の到達目標＞
・乳幼児の言葉の発達過程について言葉の機能への気付きも含めて説明できる。
・言葉を豊かにする実践を幼児の発達の姿と合わせて説明できる。
・児童文化財（絵本・物語・紙芝居等）の意義を理解し、実践を通して基礎的な知識を身に付ける。

＜授業方法＞
事例や視覚教材を使用する。グループワークや模擬保育を通して、実践的に知識や技術を身につける。

＜授業計画＞
第1回　オリエンテーション／人間と言葉
第2回　言葉に対する感覚を豊かにする保育実践①言葉の楽しさ・面白さに触れる
第3回　言葉に対する感覚を豊かにする保育実践②言葉の美しさ・豊かさに触れる
第4回　子どもと劇遊び①
第5回　子どもと劇遊び②
第6回　子どもの言葉を育む児童文化財の意義
第7回　児童文化財（おはなし）
第8回　児童文化財（絵本）
第9回　児童文化財（紙芝居）
第10回　児童文化財（ペープサート、
第11回　児童文化財（パネルシアター）
第12回　児童文化財（人形劇）
第13回　言葉を豊かに育む環境の構成
第14回　言葉に関わる現代社会の課題（情報化社会が子どもに及ぼす影響）
第15回　まとめ

＜授業時間外学修＞
事前課題や復習に取り組み、知識及び疑問点を整理する。

＜テキスト＞
適宜資料を配布する。

＜参考書・参考資料＞
「幼稚園教育要領解説　（平成30年3月）」文部科学省
「保育所保育指針解説　（平成30年3月）」厚生労働省
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説　（平成30年3月）」内閣府・文部科学省・厚生労働省

＜成績評価＞
課題60%　レポート40%

＜備考＞
特になし。

幼児と身体表現			小貫　凌介	
必修科目	演習	1単位	2年次	単独
教員養成課程の区分	領域及び保育内容の指導法に関する科目「表現」			
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目「幼児と身体表現」			
担当教員の実務経験	―			

＜授業概要＞

映像資料から幼児の表現について理解をし、様々な表現教材に触れながら、理論と実践を交えて学ぶ。
グループワークで協同的、探求的に学ぶ機会を設定し、実体験を振り返りながら、幼児と身体表現についての理解を深める。

＜授業の到達目標＞

・幼児の遊びや生活における領域「表現」について説明できる
・様々な体験を通して感性を豊かにし、感じたことや考えたことを身体と言葉を用いて表現できる
・他者の思いや考えを受容・共感し、協力してより良いアイディアを生み出すことができる

＜授業方法＞

対面授業、講義と実技演習を複合的に行う。

＜授業計画＞

第1回　ガイダンス（授業概要、受講上の注意点など）・幼児と身体表現のねらい及び内容
第2回　幼児と身体表現（1）幼児の身体表現の特徴を知る。
第3回　幼児と身体表現（2）幼児が表現する姿と発達との関係について学ぶ
第4回　表現リズム遊び（1）手遊び指遊びにおける基礎知識・技能を実践的に学ぶ
第5回　表現リズム遊び（2）わらべ歌遊びにおける基礎知識・技能を実践的に学ぶ
第6回　表現リズム遊び（3）手遊び指遊びやわらべ歌遊びから表現遊びへ発展させる
第7回　自然を諸感覚で感じる体験を通して、自然環境への興味関心を高め、感性を豊かにする。
第8回　心動かされた体験からイメージを広げ、言葉や音、動きで幼児の身体表現を理解する。
第9回　自然と出会い、表現した実体験からグループ活動を通して、表現を生成する過程について理解する。
第10回　身近な素材を使った身体表現（1）素材から広がる表現の可能性に気付く。
第11回　身近な素材を使った身体表現（2）グループで創作する活動を通して、遊びを創作する基礎力を育む。
第12回　グループワーク（1）身近な素材から動きを見つけ、動きの模索を行なう
第13回　グループワーク（2）（1）の成果をグループごとに発表する。
第14回　全体の振り返り、まとめ
第15回　期末試験

＜授業時間外学修＞

事後学修として、毎時の振り返り記述を実施し、提出すること。
各自記録する授業ノートおよび配布資料を整理し、復習すること。

＜テキスト＞

なし

＜参考書・参考資料＞

幼稚園教育要領　（平成29年3月告示　文部科学省）
保育所保育指針　（平成29年3月告示　厚生労働省）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領　（平成29年3月告示　内閣府・文部科学省・厚生労働省）

＜成績評価＞

期末試験(80%)、授業態度(20%)

＜備考＞

特になし。

幼児と人間関係			清水かおり	
必修科目	演習	1単位	2年次	単独
教員養成課程の区分	領域及び保育内容の指導法に関する科目「人間関係」			
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目「保育内容の理解と方法」			
担当教員の実務経験	保育士・保育教諭（保育所・認定こども園5年）、幼稚園教諭（幼稚園6年）、乳幼児教育分野における国際協力（2年）			

＜授業概要＞
現代の幼児の人間関係の育ちに影響を与えている社会的要因について理解し、幼児教育で保障すべき教育内容に関する知識を身に付ける。特に、領域「人間関係」の指導の基盤となる基礎理論として、関係発達論的視点について学び、他者との関係や集団との関係の中で幼児期の人と関わる力が育つことを理解する。

＜授業の到達目標＞
1．領域「人間関係」の指導の基盤となる、幼児の人と関わる力の育ちに関する専門的事項についての知識を身に付ける。
2．幼児を取り巻く人間関係をめぐる現代的課題を理解する。
3．幼児期の人間関係の発達について、幼稚園生活における関係発達論的視点から理解する。

＜授業方法＞
・講義を踏まえた調べ学習をし、発表をした上で幼児をとりまく多様な人間関係について理解を深めていく。
・グループディスカッションによって他者の意見に関心をもち、自分の考えに取り込んでいく。

＜授業計画＞
第1回　現代社会と幼児の人間関係
第2回　家庭・地域での経験と幼児教育に期待されるもの
第3回　3歳未満児における人間関係の発達
第4回　身近な大人との関係を基盤とした育ち
第5回　幼児期の遊びや生活の中にある人と関わる力の育ち
第6回　個と集団における人間関係の育ち
第7回　乳幼児期の自立心の育ち
第8回　自我の芽生えを基盤とした自立への道
第9回　幼児期の協同性の育ち
第10回　目標を共有し協力してやり遂げようとする力の育ち
第11回　幼児期の道徳性・規範意識の芽生えと育ち
第12回　他者との葛藤体験をする必要性の理解と、気持ちを調整する力の育ち
第13回　乳幼児期の人間関係の拡大
第14回　家庭・園・地域へと拡大する生活の場と関係性
第15回　幼児期に育みたい資質・能力と人間関係

＜授業時間外学修＞
前回の授業ノートや資料を熟読し、自分の言葉で説明できるようにしておく。

＜テキスト＞
『乳幼児と人間関係』（浅井拓久也　萌文書林）

＜参考書・参考資料＞
幼稚園教育要領（平成29年3月告示　文部科学省）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示　内閣府・文部科学省・厚生労働省）
保育所保育指針（平成29年3月告示　厚生労働省）

＜成績評価＞
授業内提出物（30%）　レポート（30%）　課題発表（40%）

＜備考＞
特になし。

幼児と造形表現			羽田　顕佑	
必修科目	演習	1単位	2年次	単独
教員養成課程の区分	領域及び保育内容の指導法に関する科目「表現」			
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目「幼児と造形表現」			
担当教員の実務経験	―			

＜授業概要＞
子どもの発達段階に応じた表現の姿を理解し、特に造形分野における「素材」を主とした要素に着目して学ぶことで，子どもの感性や創造性を育む表現過程を支えるための知識・技能および表現力を身に付ける。

＜授業の到達目標＞
1．領域「表現」の位置付けや意義について理解している。
2．表現が生成される過程を理解することで、子どもの表現への受容と共感ができる。
3．素材・方法に応じた表現の特性について、身体の諸感覚を駆使した体験に基づき理解している。
4．表現過程を構成する諸要素の在り方や重要性を、具体的な事例や姿から分析することができる。
5．造形分野に関する基礎的な知識・技能をもとに，子どもの表現活動について考えることができる。

＜授業方法＞
講義と実技演習を複合的に行う。実技演習では個人および集団による制作や遊びを取り扱う。

＜授業計画＞
第1回　【講義】ガイダンス（授業概要、受講上の注意点など）／表現領域のねらい及び内容
第2回　【講義】造形領域からみる人間の発達的特質
第3回　【講義】心身の育ちに応じた表現発達過程（描画の発達段階）
第4回　【演習】描画の発達段階の追体験①描画遊びと制作
第5回　【演習】描画の発達段階の追体験②描画表現の試み
第6回　【講義】前半まとめ（講義内容小テスト）／演習ガイダンス
第7回　【演習】絵の具による表現：感触的な描画
第8回　【演習】水粘土による表現：素材の生成・手の思考・量で遊ぶ
第9回　【演習】新聞紙による表現：見立て・遊び・制作
第10回　【演習】素材を活用した表現①紙と用具による遊び
第11回　【演習】素材を活用した表現②段ボールを基体とした共同制作
第12回　【講義】演習の振り返り／最終課題について
第13回　【演習】ペアワーク：素材の探求／表現過程の観察①導入
第14回　【演習】ペアワーク：素材の探求／表現過程の観察②本活動
第15回　【演習】ペアワーク：素材の探求／表現過程の観察③まとめ

＜授業時間外学修＞
事後学修として、毎時の振り返り記述を実施・提出すること。また、各自記録する授業ノートおよび配布資料を照応・整理する機会を設けること。
事前学習として、資料の参照を指示する場合がある。

＜テキスト＞
平田智久(監)，小野和，宮野周(編著)『〈感じること〉からはじまる子どもの造形表現』，教育情報出版

＜参考書・参考資料＞
松岡宏明，『子供の世界　子供の造形』，三元社
『幼稚園教育要領』平成２９年３月告示，文部科学省
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』平成２９年３月告示，内閣府・文部科学省・厚生労働省
『保育所保育指針』平成２９年３月告示，厚生労働省

＜成績評価＞
1．成果物・記録(60%)　3．小テスト(20%)　4．最終課題(20%)

＜備考＞
全ての演習への参加・所定の課題提出が、学修を完遂するための必要条件です。
実技演習を行うにあたり、教員が示す活動に適した身支度と準備を整えること。

倫理学			川久保　学	
必修科目	講義	2単位	2年次	単独
教員養成課程の区分	―			
保育士養成課程の区分	教養科目「外国語、体育以外の科目」			
担当教員の実務経験	高校教員３７年　大学講師１３年			

＜授業概要＞

生命倫理や医療倫理を中心に、倫理学のみならず法哲学や政治哲学、家族社会学や女性学等で広汎に論じられている応用倫理的な事柄を具体的に取り上げ、より身近な問題として倫理学に関わる機会を持つことにより、倫理学への関心を深め、公民及び職業人として必要な資質を養う。

＜授業の到達目標＞

多面的多角的に物事を把握できる倫理的視座の涵養を通して、多様な価値観が交錯する現代社会における自律的な生き方在り方の確立を図る。

＜授業方法＞

パワーポイントによる講義形式

＜授業計画＞

第1回　功利主義と義務論（トロッコ問題/不幸の最小化/パンデミックの倫理学）
第2回　リベラリズムとリーガルモラリズム（ハート・デブリン論争/輸血拒否事件）
第3回　リバタリアニズムをめぐる問題（幸福追求権/人工妊娠中絶論争）
第4回　平等主義リベラリズム　（囚人のジレンマ/無知のヴェール/格差原理）
第5回　障害者差別について考えるI（パーソン論/優生思想/出生前診断）
第6回　障害者差別について考えるII（ケイパビリティ/多様性/NIMBY）
第7回　死について考えるI（臓器移植と脳死/安楽死と尊厳死）
第8回　死について考えるII（孤独死と無縁社会/実存哲学―ハイデガー）
第9回　家族規範について考えるI（尊属殺重罰規定/夫婦別姓問題）
第10回　家族規範について考えるII（法律婚と不倫/非嫡出子相続差別問題）
第11回　女性のライフコースと結婚規範I（母性保護論争・アグネス論争・負け犬論争）
第12回　女性のライフコースと結婚規範II（性別役割分業/結婚観の変容/リスク社会）
第13回　エンハンスメント（ドーピング/リベラル優生思想/欲望と欲求）
第14回　道徳性の発達（認知の発達/ハインツのジレンマ/ケアの倫理）
第15回　考え議論する道徳（モラルジレンマ/道徳の教科化―全面主義と特設主義）

＜授業時間外学修＞

授業後提示される課題レポート作成（60時間）

＜テキスト＞

授業時に配布

＜参考書・参考資料＞

なし

＜成績評価＞

期末テスト５０％　課題レポート５０％

＜備考＞

特になし。